

ル 3  
3496  
6





外門の額  
 梁牌の銘  
 瓶の  
 舟殿  
 總門額  
 妙光の  
 同銘  
 常樂寺  
 窟不動  
 本堂  
 鐘樓  
 泉の  
 扇の  
 景清庵  
 巽荒神  
 裁許橋  
 天狗堂  
 山門額  
 石盤  
 惣門額  
 淨智寺  
 同額  
 白鷺池  
 虎頭石  
 竹宝牙舍利  
 本曾家  
 壽福寺  
 最明寺跡  
 明月院  
 甘露井  
 方丈  
 宿龍池  
 東慶寺  
 鐵井  
 實朝塔  
 石佛尼塔  
 矢拾地蔵  
 底脱井  
 正宗宅  
 尊氏牙蹟  
 隱里  
 佐々目谷  
 圓覺寺  
 山門額  
 鹿巖  
 長壽寺  
 松源寺地蔵  
 英勝寺  
 源氏山  
 為相塔  
 十六井  
 運慶宅  
 典禪寺  
 縁洗水  
 塔  
 過

阿佛尼蹟  
 鎌倉  
 神明宮  
 鶴龜石  
 茶師堂  
 二王門  
 段蔓  
 神主館  
 法華堂  
 鎌倉十橋  
 覺園寺  
 大塔宮土牢  
 天台山  
 釋迦堂谷  
 淨妙寺  
 併殿  
 龍王殿  
 極樂寺  
 鶴岡八幡宮  
 瀨朝井  
 六朝井  
 柳原  
 赤橋  
 十二石  
 十二院  
 頼朝卿墓  
 畠山重忠第  
 大樂寺  
 二階堂跡  
 歌橋  
 唐絲娘土牢  
 尊氏第  
 本山塔  
 書院  
 藤原池  
 本宮  
 愛染堂  
 銀杏塔  
 多宝塔  
 神池  
 後路塔  
 鳥津忠久墓  
 蛇谷  
 鎌倉十井  
 獅子巖  
 文覺冢  
 杉本親吉  
 五大堂  
 拾剝樹  
 影向の松  
 武内社  
 影向石  
 護國堂  
 實朝祠  
 一石  
 頼朝館  
 鳥合原  
 荏柄天神  
 棟立井  
 瑞泉寺  
 大御堂谷  
 滑川  
 建長寺  
 嵩山  
 銅碑  
 山門額

盛久頸座  
甘繩祠  
藤九房盛長家  
名能瀬川

光則寺  
大伴  
御樂嶽  
常盤里

長谷寺  
御靈祠  
星月夜舟  
實戒寺

北條第  
土佐坊第  
葛西谷  
屏風山

小富士  
塔  
行池  
產女塔

妙本寺  
比企判官趾  
田代觀音  
裸地藏

補陀洛寺  
光明寺  
本堂  
折藤堂

新居燔魔  
鎌倉渾村  
守殿明神  
小壺鷲浦

燈摺山  
六代河原墓  
神嵩  
岩殿觀音

御猿畠山  
日蓮水  
石弁  
安國寺

佐竹第  
梶原第  
頼燒弥陀  
梶原右刀洗水

朝比奈切通  
侍從川  
六浦川  
金龍院

飛石  
瀬戸明神  
瀬戸毎天  
福石

洲寄  
照心松  
金隈  
兼好旧趾

西湖梅  
櫻梅  
本堂  
愛蔵堂

美石  
筆松  
藤澤  
同興觀塔

能見堂  
觀音堂  
藤澤  
清淨光寺

本堂  
富士見亭  
常行堂  
日依堂

訪丈  
竹子  
戸塚  
當山累世墓

程谷  
芝生窟  
神奈川  
武藏相模國櫻

大師河原  
五川  
一各六郷川  
川壽

新田明神祠  
五川毎天  
八幡冢  
大森

奉向寺  
本堂  
祖師堂  
交口渡口

祖師腰掛松  
祖師塔  
七面祠  
題目堂

鈴原八幡  
鳥石  
荒菫寄  
名産海苔

品川  
水月觀音



ハリク

海晏寺 しんげん	東海寺 とうかい	御殿山 ごてん	八幡山 はちまん
芝大佛 しばのぶつ	泉岳寺 いづみぐさ	芝沖換舩 しばのちかひぶね	三田八幡 みたはちまん
真藍觀音 まゐろくわん	西應寺 さいおう	道灌城趾 みちくわんじ	熊谷城墟 くまがやじ
雜魚場 ざいご	含海山 くわんかい	長南寄 ながみなり	金杉 きんさき
増上寺 ぞうじょう	飯倉神明 いひくらじんめい	畫肆 えのしや	愛宕 あいとう
築地本願寺 つきぢほんがんじ	日本橋 にほんばし		



伊澤



**江嶋辨財天女社** 或ハ濱ノ巖又ハ復ノ洞ノ巖也ト書ハ上ノ方ナリハ...  
町の向潮の干たる時ヲ歩ムルハ海ノ淵ノ底ニハ其ノ所ノ巖ニ生ケル紅花ノ三葉ノ形ノ金山石ノ由リ日本ニ其ノ第一箇ノ所ヲ載ル作生ケル江嶋ノ三葉ノ

江の流やぎりて汝流小のともく神代ちひの流さるる

相州江之嶋ハ開化天皇六年四月江頭ノ南方小中テ海面一表鳴動

て碧空小注ミ黒雲騰騰シテ洋々々百灘天地分クテ漸其鷄

鳴小及テ竜女ト青樂子波の中ニ聞エテ童翁遊んで花陰異香薰

既小驚傷長く靜リ暴風遍ク盡ク孤鳶海上小涌出シ今ハ江

嶋コレレハ時小當テ天女忽然トテ降臨シ中ニ續ク四王天十二神將

天女狐守護ト遠近ハ村民遙小ハ祥瑞ヲ得ハ渙父ハ初テ鄙心ト弄ク

蓑信狐發シ農夫々野情ト止テ至誠ト祀ル而後 欽明帝神宇六年

四月依詔初テ夜の例象依レハ又順徳院神宇建保四年正月十

五日江嶋明神祀宣有テ滄海忽陸路ト変レ因茲番俗ノ人民躬レ

煩々々々と近ク鎌倉中ハ縑素羣集ルハ真小希代ノ神變ト云ハ

左邊門尉義村武衛頼朝々々神役トシテ其後トモ奉東鑑小

凡之ヨリハ傳ノ開基初ハ後小角ありハ春澄又ハ道智其ハ弘法

大師後トモ文覺房ト再興ありハ聖場ハレ地々風系真妙小

○**宮本宮** 江嶋南ノ瀆ノ金窟瓜ツカ大女財天ト安レ神像弘法大師ノ

胎藏界 金剛界ト表レ又其奥ハ兩部大日如來ト安レ是ハ天女櫻枝

弘法大師ノ影ノ像アリ又日蓮ノ跏坐石ト云レ又西ノ窟小

窟ノ内流小藏心今ハ法華經ハ別當岩本院ノ什寶ト云レ

○**魚板石** 龍窟ノ前ヤあり岩面平シテ魚板ノ由リハ蓋ハ石上ナリ

○**本宮御旅所** 江嶋西南ノ山嶺小あり毎歲四月初巳日龍窟

又十月初支日小龍窟ハ還者ナリ十月より四月までハ龍窟小安

○**稻殿額** 江嶋大明神ト書レ後宇多院ノ家室トシ江嶋建保五年九月廿

求聞持堂 本宮の側あり 虚室藏神と云ふなり 求聞持の額あり

開山堂 日光所向 主光辨法親王の所 あり

末社 弘法大師の安ん 縮み 天満宮 妙善天女相殿あり

銅器居 寺材天の額とあり 本宮へせり 坂本あり

神庫 神樂樂器あり 龍馬の額あり 龍馬の額あり

石鳥居 龍馬の額あり 坂の上あり 本宮

別當岩本院 本山の金龜山 願寺と号し 岩本院の山懸別當あり

上之宮神殿 高山の中程あり 祭神大牟財天女神像の慈覺大師の他

將殿額 本財天と書れ 釋乘圓の書れ

護摩堂 社の西あり 中書愛保明王 左右弥陀地藏と安ん

鐘樓 社の西あり 宝永年中 修りあり

上之坊 上之宮の護り 真言宗 江の坊の其一

下之宮神殿 山の初めあり 社説云 正治元年 良真上人は修り

三層塔 板の半あり 五智如来の塔 板の半あり

燔燈堂 板の右あり

牛頭天王神像 隨身門の 側あり

観音堂 如意輪観音を 祀り

末社 龍聖神明 山王とあり

二王門 小坂の上あり 寺は尊ん 額をうり

観音堂 求聞持堂の南 あり

休柱居 坂本あり 金龜山の額とあり

石鳥居 坂の上あり 樹門のふふ多く

石燈燵 大室王と云ふ額あり 弘法大師の書れ

岩屋名居 弘法大師の書れ

末社 神明 熊野 楠あり

樓門 樓上あり 妙善天女神像あり

本柱名居 本財天の額あり 陰に燈燵あり

隨身門 坂の上あり 天女神像あり

開山堂 良真上人の像あり

藁師堂 十禪師あり

護摩堂 観音あり

石鳥居 坂下あり 金龜山と 額をうり



鐘樓 寛永十四年の造立なり

奉治鑄金龜山與願寺宇賀辨財天女

大日本國東海道相模州江島郡從金輪際涌  
出之靈嶋敷福神陀居之巖窟焉加之人王三  
十代欽明天皇十三歲自四月十二日戌  
刑當干江野南海潮水之水門雲霞暗蔽海上  
日夜諸天地六種震動天女顯現雲上童子侍立  
左右降天龍神水火雷電山神鬼魅夜叉羅刹  
浪同及于盤石從海舉砂礫電光耀空火焰交白  
崑崙山耳今之三神山是也抑此神將王者天地  
之起陰陽之初也聞法年舊誰知空王地  
事利生日新何如尊神現德乎本地則等覺妙  
覺之尊大慈大悲之濟渡幾舊迹亦天童天女  
之體與官輿福之利益是傳教意前發願影向  
詣此山越知泰澄居當寫念時常隨給仕安然  
弘法床上對請恒臨慈覺實宗之被冥助文武  
行場應滿知所靈驗矣肆作心之禮越等依奉  
尚農家家一仰聲上徹梵天頂下響地輪底此土  
治鑄蒲牢一聲遍用聲塵三寶證明之諸天衛護之  
耳根利故久御願圓滿別而施主懸志於辨  
總而天長誠於大悲誓約所祈善願令悉地成  
就本願任誠於大悲誓約所祈善願令悉地成  
就而己維時寬永十四丁丑曆閏弥生吉祥日

天台傳燈三部都法大阿闍梨法印生順謹書  
下宮別當職權大僧都法印長神誓首敬白

碑石 別石あり座あり高五尺許申式入七寸厚サ四寸但一上と雨縁の  
地埋んく建り碑文の所半あり折々結合せりあり土人の稱ふ  
江島の屏風石と云ふ相傳は碑の土門帝の所字ふ良真  
なる末國ふ到り慶仁禪師ふ極くは碑と將來一掃朝  
まといふ蒙頼の小篆文字や大篆と兼り

肉目 本國 江島 靈迹 産山 此  
あれは三つ小僧記の石換りて之の石は僅小言扁と厚く記と  
圓の四方雲龍を鑄ま古雅風流の奇品に碑文の刻鉄引く分明あり  
石面ふ石月の霽ありて終ふ十界性人成と所々ふ別れて幽ふ足る惜む  
舎とのまゝに之の碑圖の縁倉志ふふとこれのく小畧れ

下之坊 下之宮に護つ真言宗妻帯あり

銅鳥居 坊の入口にお立つ大舟財天を額をうり

住吉祠 山口ふ 荒神祠 小坂の上ふ

荒神石 荒神祠の後の山の半ふあり其形蝦蟆に似たり

福石 下之宮へちり坂の半ふあり俗説ふ云石の側より何れも

蓮英池 山中ふありむ一上人遊涉の時此所阿陀陀伴有縁の  
池とく依ふまゝに稱名念伴一申入事年々ありとて又

一連上人自子の額あり蓮葉水と書し

今岩本龍窟ありく竹物と云  
龍窟へ下る岩下の岩あり相傳はじり建長寺廣徳庵に  
兒ヶ淵 自休願主と云ふ山あり美少将あり奥州信太の以ての時宿願ありて

江流不流は山中ありて美少将あり奥州信太の以ての時宿願ありて  
ありて人の伴へ僕に向を懐念の形永保に住中白龍窟といふ見たり

此窟の窟ありて人よりく龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
諾もりの窟ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

賜れども酒ふたりさる人月と書て求れども見たり  
賜れども酒ふたりさる人月と書て求れども見たり

白龍窟の窟ありて人よりく龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
白龍窟の窟ありて人よりく龍窟といふの窟に書て求れども見たり

のく二首の辞ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
のく二首の辞ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

懸崖 嶮處 捨生 涯十有餘 霜在剎那  
花質 紅顏 碎岩 石城 眉翠 黛接 塵沙  
衣襟 只濕 千行 淚扇 子空 留二首 歌  
相對 無言 愁思 切暮 鐘為 孰促 歸家

白龍窟の窟ありて人よりく龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
白龍窟の窟ありて人よりく龍窟といふの窟に書て求れども見たり

白龍窟の窟ありて人よりく龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
白龍窟の窟ありて人よりく龍窟といふの窟に書て求れども見たり

白龍窟の窟ありて人よりく龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
白龍窟の窟ありて人よりく龍窟といふの窟に書て求れども見たり

龍池 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
龍池 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

飛泉窟 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
飛泉窟 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

十二窟 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
十二窟 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

仁田拔穴 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
仁田拔穴 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

聖天島 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
聖天島 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

叱枳尼天山 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
叱枳尼天山 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

圓可寺 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
圓可寺 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

江島名産 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
江島名産 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

幅海苔 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
幅海苔 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

比志岐 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
比志岐 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

龜箱積 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり  
龜箱積 ありて龍窟といふの窟に書て求れども見たり

教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那  
教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那

教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那  
教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那

教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那  
教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那

教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那  
教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那

教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那  
教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那

教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那  
教三と江の橋のりやのやとらん龜の上るる山櫻う那

江崎御祭  
 毎年四月初巳日  
 鹿嶋宮に於て  
 神樂を奉りて  
 祭樂あり  
 祭禮あり



江の浦々  
 ちひ涼くた  
 神かくは  
 波のまゆん  
 舞臺  
 香櫓  
 仲地  
 富士谷成草



其高社の神跡、大已貴命也。久延彦命と信奉ありて、天照大神に  
尊之其和魂、忍忍犯之富主媛命と號す。神系圖、和漢之才圖會、相州江島の  
と云ふ事、江島に神祕といふ事、神系圖、和漢之才圖會、相州江島の  
神の素盞鳴尊の所女、倉稲魂神と書さる。秘書云、大日本東海道相模國江島、天龍八部所造  
秘書云、又大縁記云、延唐寺、大日本東海道相模國江島、天龍八部所造  
辨財天女の靈迹之種、而靈寫其祀と檢つた。房廡、模之國の磯多、餘倉  
與海月郡、小四十里、其湖あり、深濶とわづ、其體、水洋々として、四山影を  
遠小摸、一雲霧、朦朧として、谷と藏、材狼岳、小満、あ人、小到、れと  
黒風指と挿し、白浪岩、小咽、故、小人跡、湖、小絶、ぬ、又、五、到、の、龍、  
あり、く、園、内、小、適、満、して、災、禍、と、多、く、半、多、く、つ、時、山、崩、して、水、  
田野、流、と、木、本、損、弊、して、病、疫、多、く、起、る。景、乃、帝、此、時、惡、龍、  
と、小、接、り、火、の、雨、と、降、る、人、民、を、れ、小、懼、さ、れ、石、窟、と、り、て、人、屋、と、  
安、康、帝、此、時、小、圓、大、倉、小、苑、と、あ、れ、も、惡、逆、熾、ん、て、武、烈、帝、此、時、小、  
金、村、大、倉、小、苑、と、多、く、乱、妨、と、企、む、は、時、小、五、頭、龍、津、村、の、水、門、小、也、初、て  
人、れ、子、孤、噉、ふ、於、是、初、噉、澤、と、號、す、時、小、は、所、小、長、者、あ、つ、て、十、六、人、の、子、孤、持、皆、惡、龍、  
の、為、小、吞、れ、く、長、者、歎、悲、と、一、屋、西、れ、里、小、孩、一、被、屍、と、云、小、埋、む、と、  
今、小、長、者、塚、と、よ、く、其、後、惡、童、を、孤、村、邑、小、歩、く、多、の、鬼、を、喰、ふ、故、小、人、民、  
畏、れ、く、他、所、に、移、る、其、所、と、子、死、然、と、号、す。今、腰、掛、こ、ふ、て、こ、こ、に、一、鬼、  
を、人、を、引、く、惡、龍、の、贄、小、供、ふ、れ、と、今、小、龍、口、と、云、欽、明、帝、十、三、年、夏、  
四、月、江、島、南、海、水、門、小、也、と、云、云、江、島、小、藏、以、雷、電、波、浪、小、掛、り、天、女、雲、上、  
小、現、し、ゆ、小、童、童、左、右、小、依、奉、一、諸、天、龍、神、の、空、中、より、磐、石、小、降、し、海、  
を、より、り、の、沙、石、小、奉、て、海、面、小、一、尺、考、小、乃、今、江、島、と、れ、其、時、十、二、の、時、  
來、て、為、小、龍、個、と、故、小、為、來、考、と、い、ふ、辨、財、天、女、を、小、寫、に、天、降、り、小、容、貌、  
微、妙、小、一、て、金、窟、小、窟、々、り、の、五、頭、龍、と、云、女、神、威、小、懼、れ、て、屈、伏、し、  
却、て、國、家、豐、饒、の、宇、護、神、と、成、今、龍、口、神、祠、と、あ、れ、之、殿、后、文、武、帝、四、年、  
夏、四、月、役、行、有、豆、州、の、大、岩、小、在、て、遙、小、北、海、小、眺、り、の、晴、室、小、紫、雲、覆、隸、と、

行者專不動其咒と痛き其時瑞雲窟中に起り光明空裡公顯一忽然  
也して天女化現し八臂は尊體ふして是を天女現の最初重なる七  
妻三月秋泰澄江橋小到り陀羅尼公顯と云ふ亦生身と現しゆ弘仁五  
年妻二月弘法大師聖跡公顯を令く東海小却く相州津村の濱小至り遙  
小南海公顯ゆを聖考あり橋の頭より彩雲浮んで雲上の金龍公見し  
大師教して船小来し一島小到り金窟小入り政坐する身一七日專直  
言陀羅尼公積滿ざる夜窟中嚴淨して梵樂聞ゆ天女忽然として  
現れ八臂具足の相好公見しゆ大師小一偈公示して曰

三界是我有衆生亦吾子  
此處多諸難唯我能救護

承安二年文覺上人豆州謫遷時武將賴朝公不期して義兵公上りて光  
文覺江橋小来りて每賦天小祈願其後四海治平天下靜謐日寸文覺房は龍窟  
小泰籠し奥州伊達秀衡調伏公傍ら日寸金窟小居公建らる其外藤  
倉武將の尊仰ありひり龍穴にて祈雨の事相東鑑ふんる又武衛の執

權北條四郎時政江橋小泰籠して子孫の繁昌公傍らるる三七日公高りたる  
衣緋袴小柳裏に衣着るる女房の端嚴美態を忽然して来り時政小  
若て曰汝が如生の箱根の法師之二十六部は法華經公書寫して六十箇圍の  
靈地小奉納したる一若根小よつて再び土小生る身公得たり然れば子孫永  
推と執て榮花小やあるべし但舉動違ふ所ありは七代と云ふは公は云々  
不審ありて圍々小納し所は靈地と云ふと云捨て歸るゆ其妻公見しゆこも  
巖のりり一女房忽長二丈許の文龍と成て海中小入り其跡公見る小大に  
鱗之牧殘せり時政所願成就しぬと喜て則ちの鱗と取て旗の紋を公押さる  
たる此條之鱗形は故是之其後毎天の示現小任て圍々の靈地入公きり  
奉納は法華經公見しゆゆる小俗林の時政と法師は名小換り奉納の旨  
れよふ文法師時政と書たるまが小思慮を公を平記も公見しゆり其より  
星後甲と云文十八年因八州の太守小糸氏康江橋に神嚴諸社諸堂の  
荒蕪と藪とを美金神劍神馬公納らる其後代々將軍家は御家附

數々あり神威のほろ新しと利生の光輝日々小職の捧ふ社二座の例系巖重たり其中に卯月初巳日然小龍く本宮所旅ふ四神の旗左右小連り神幸のそ目ハの剋龍窟より音樂を渡初の方お警蹕の侍士神の仕丁白散巾獅子頭唐檀ハ若ひ人神饒の神寶と掲ぐを刀弓玉鍵の神具樂人左右小烈して音樂を奏し若を鞞を雙調吹拍く磬も乱聲小調社僧七人別為感二人お小騎とあごして神樂以渡を駕樂丁後より錦蓋と掲ぐる海峯義々る巖上松桓々として神幸專くして又あつらへ傳れ波々去海波と奏し松の風と若茶樂松洞此日江戸よりハ乃路僅小十二里おれハ男女童の口いさ老もくあふ流し近園近郷の浦々ハ船と漕つれみるい糸式と掲ぐんとて群集を内事海陸の賑ハ大方あふ山下山旅舎ハ遠近の旅人と止く響應を都てい流ハ漢家多く朝網夕曾と若ハ込魚以料理て出はあハの名物こく鮮魚の美味多とす一ハ旅舎の店小腰打掛く若鞋履あぐく

二之膳云之膳お居さありゆる々二階小宴トて帰旅とさるもありハ山形亀お似さるさ金龜山と號し法有竟惠の紀ハ小爰ハ蓬萊洞といふや深秘くと書れとる實ハ巖島外生島江流ハ三々俱ハ山水の傍地と撰んで鎮坐極くまは事ハ八百歩の中やハ風色の名所とあひて吾堂お與ハあひ御神ハ御旅とあつらへりてさあつてく尊信と流しとる

蘭溪和尚同遊江島歸賦以呈

宋ノ大休 佛源禪師

江島 追遊列俊鬘馬蹄獵推春袍  
穿雲分座烹茗策杖徐行踏巨鼈  
洞口千尋石壁聳龍門三級浪花高  
須知海角天涯外萍水迎帷能幾遭  
別當巖本院寶物 弘法大師作  
刀八毘沙門金像 同筆  
阿彌陀畫像 同筆  
江島 超五卷詞書作者不知画土佐筆  
北奈氏 康古證文  
太田道灌軍配團  
馬五 壹顆  
九穴貝 壹箇  
二岐竹 壹本  
蛇角貳本長一寸



日蓮上人  
齋跡



龍口寺

唐原

藤城

龍口神祠

津村ふあり系神江流大岩嶺ふあり例祭九月九日社務と  
實岩院といふ山の半腹ふ岩石あり其形龍の口ふ似て江流  
の方ふ向ふ故ふ岩龍口山といふ名居り

龍口寺

津城村の内ふあり日蓮宗寂光山といふ  
八箇寺の輪番あり

日蓮上人像

法上人の他祖經遷化の後子六僧  
が法令せり寺建ふ

敷草石

本堂の内陣厨子ふあり書額ふ云文永八年九月十二日日蓮  
上人難ふ遇ふあり又一名首座石といふふれを龍口の内  
庭に置り

七面洞

本堂の東ふあり  
番神堂 七面の南ふあり松平飛騨守利次の  
室本願と再興ふ及ぶ

經鉢箱

本堂の西ふあり  
日蓮上人土窄 本堂の西山麓の  
窟あり

敷草堂

本堂の東向ふあり祖師の像  
老僧の像あり

光の松

門内の南ふあり日蓮上人難ふ遇ふあり時以松枝ふ光明  
の影に上り人松照とてや近年江戸菊明  
の碑あり

長者塚

龍口山の東ふあり江流記ふあり長者十六人の子  
龍ふ其苦楸の爲ふ塚築とて今ふ家の形あり

長者窪

長者の東ふあり長者が住り  
長者の形あり

初噉

長者窪より西の方十五町許山麓とて谷中ふあり今ふ  
跡あり

固瀬川

津城村より西ふあり固瀬村といふ氏家よりわたり川端や大庭  
三郎親頼の所とて又新田義貞鎌倉君攻のとき  
斤願徳頼十間坂五十餘ヶ所火をわたりて  
清光左衛門といふと通りたる時早火の尿せり  
時頼の併せりたる壁とて信人ふれり  
向ふ小糸原の併せり親族の高僧とて多くの布施あり  
貧僧ありしも其の由り早火の尿の流へりといふ  
事と田畑のやうに尿とせりをわたりて  
早火の併せり時頼を併せり青砥とて上ヶ字を政通の  
併せり

宗尊親王

宗尊親王の御代記ふ書り

西行願松

斤願村より西ふあり  
松枝とての方へ抜ゆり

唐原

又諸願松ともいふ斤願川の東ふあり東海道筋大坂と  
平塚のあいだに唐原といふ

宗集

わ川渡の唐原といふに宗集といふものあり  
はとらまんといふとて鳥羽平の唐原とて近江唐原

宗集

わ川渡の唐原といふに宗集といふものあり  
はとらまんといふとて鳥羽平の唐原とて近江唐原

宗集

わ川渡の唐原といふに宗集といふものあり  
はとらまんといふとて鳥羽平の唐原とて近江唐原

宗集

わ川渡の唐原といふに宗集といふものあり  
はとらまんといふとて鳥羽平の唐原とて近江唐原

宗集

わ川渡の唐原といふに宗集といふものあり  
はとらまんといふとて鳥羽平の唐原とて近江唐原

宗集

わ川渡の唐原といふに宗集といふものあり  
はとらまんといふとて鳥羽平の唐原とて近江唐原

宗集

わ川渡の唐原といふに宗集といふものあり  
はとらまんといふとて鳥羽平の唐原とて近江唐原

宗集

わ川渡の唐原といふに宗集といふものあり  
はとらまんといふとて鳥羽平の唐原とて近江唐原

宗集

わ川渡の唐原といふに宗集といふものあり  
はとらまんといふとて鳥羽平の唐原とて近江唐原

宗集

わ川渡の唐原といふに宗集といふものあり  
はとらまんといふとて鳥羽平の唐原とて近江唐原



懐中抄  
更張日記

とろろの中をそそぐれまきう遠く見たり原を  
錦をむらりあうふねんざれたり

砥上原

斤願川の西ありは少ふ砥上原といふ所なり  
源平盛衰記ふらんなり

柴松のふきれきふ妻ありて心こがふ小麻呂あり  
西行

濁ちうたごころふ駒をたて斤願川の志ほひとせり  
長明

立帰る名残を妻お結ひんごころふれ葛の冬枯

杖浦

八ツ松の八子代の四ヶあおのりてごころふもつじ  
左右杖浦小舟あり

七里濱

腰杖より縮村寄まで浦道に十二町あり東園の六町より  
七里濱といひ所古戦場にして今ふあやも刀劍の折るる武具  
の錆或の骸骨など真砂の中より出づなり南方大洋舟にて風あり  
時の浪あし上げて船が崩れぬは浪の黒い影あり日映れれば光あり黒影の

小動

七里濱の西あり巖山なり  
山上ふ八王子洞あり

小動

山の上ふ八王子洞あり

行合川

山の方山谷より流るる七里濱より海へ入日蓮上人龍口の難小遇ひ川  
時多浪多れを鎌倉へ註進の使と又小倉時頼殿の赦免の使と

縮村寄

七里濱の東あり東鑑云建久二年九月廿一日頼朝が海峽を過  
流しけ所あり小笠掛の侍ありしと云は縮村寄と云ふ

奥四五町に縮村大船もみみ及へる櫓とひて棧夫が射さんと様たり  
実心は陣のさきひ叶り引ぬんも理へと刀をたれは我負馬より下給

て甲と脱て海上に遙々と依懸る龍神小舟に祈誓しあひ多の傳承る日本  
開闢の神主伊勢天照太神の本地大日の尊像ふ隠し世跡は滄海の

龍神小頭一給たり吾君其苗裔として逆臣のあふ四海の浪も漂ひあふ

龍神

義貞今居る道公をさんるふ芥條と把て故陣小隊む其志傳ふ  
王化の資け奉て蒼生安んどもんと仰願の内海外海に龍神  
八部に忠義の堅く潮水に萬里の外小退け道公三軍に陣小開の  
一はの至信小祈念し自佩給る金幣を刀に按て海中に投入  
ゆひたり直不龍神御受やゆひたり其夜の月け入方小前々より更ふ  
干渉もあがりなる猶村寄俄に二十餘町干とく平沙颯々々横  
矢射んとて操ぬる救ふれ兵船も落りけふ落れて遥の澳小漂へり  
袖の浦 縮村等の海邊社のゆへ故ふ名とれ  
又出羽とありてゆへとれとが川

袖の浦 縮村等の海邊社のゆへ故ふ名とれ  
又出羽とありてゆへとれとが川  
袖の浦は浪もさうりけいさる秋の色ふ恋はく  
袖の浦ふたまもまのなごけはよりても遠くつる波は  
定家

針磨橋 縮村のふふあり鎌倉十橋の  
其一橋あり  
月法谷 極樂寺切通の西の方あり

阿佛尼第蹟 月法谷ふあり又藏墓の巖壁英勝寺境内ふあり  
十二坂日記 東やま位やまの月法谷とていさる浦近山とてやうく風いと

あ~~~~山寺に傍をれのやうふきて浪の音ね風とく  
壘山極樂寺 極樂寺切通ふあり真言律宗  
本尊釋迦佛 尤ふ無量菩薩右ふ忍性菩薩の像又文殊菩薩と安ん

高サ二丈五尺嘉元元年七月十二日落りて  
嘉元八年七月二十日成  
極樂寺の營とて發病たり  
弘長元年十一月三日卒  
每慶腰掛松 極樂寺境内ふあり俗傳云源義經兄頼朝が夜通の松  
追返されし時松を腰に掛しつ  
極樂寺切通 極樂寺境内ふあり由井の渡へ切通し

七里濱

腰城より稲村橋  
まで四十二町あり  
東風六町を里成  
り川七里濱と  
いふあり一は地  
古戦場あり七合  
刀劔のたぐひ古  
かど中より出  
来あり



川地勢  
七里

古戦場

百戦人安在蕭條  
逐鹿原陣圖空  
臥石運數盡枯根  
鬼哭陰臺後燐生  
產回兩痕因悲千古  
地來者亦難存

皆川洪園





新田義貞海軍の討  
 北条の軍勢海陸  
 充滿...  
 かの...  
 めて海上に...  
 龍神の外...  
 二十...  
 高待...  
 直...  
 外...  
 同日の...

伊藤指子貞殿

稲色寄



鎌倉

相模鎌倉郡小田原郷小鎌倉郡内藤原里とあり相模は

北山内と云々其中小谷七郷十井十郷七の切通五水の名泉あり其外  
名所舊跡神社傳刻多し一松を鎌倉志小見たり云々大畧改署ハ  
万葉

抄五 忘れ草のほむとあり成山なりゆもさるの山 大御言公任

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 貴方

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

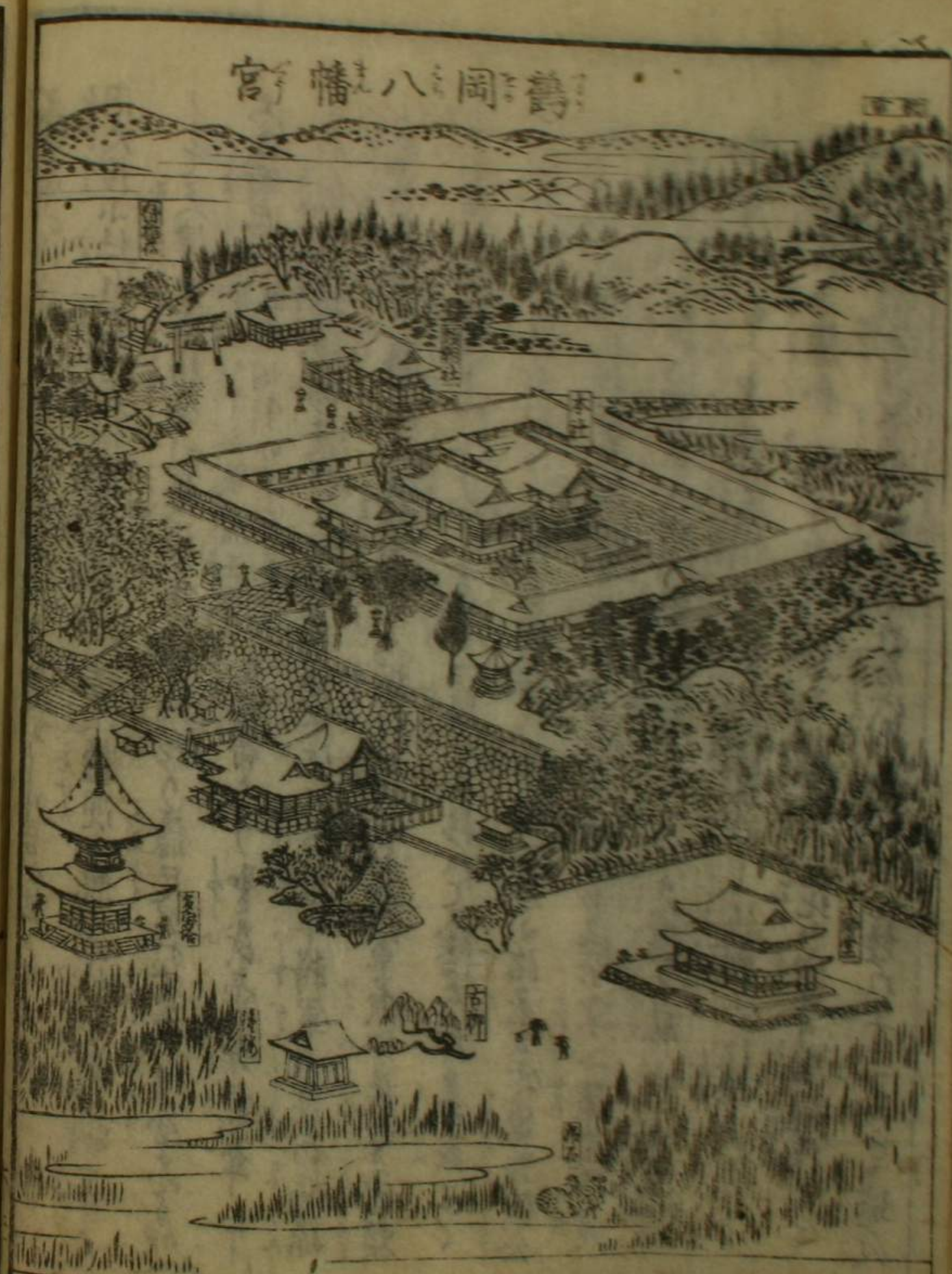
あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱

あつたりのろの池地味つゝ鎌倉山の表乃花園 基綱





由井溪  
大なる居



鶴岡八幡宮

鎌倉中央のあり、舊名小幡郷、松岡とて入道宮とて、由比の  
 あり、遷座のあり、東遷ふるより、細路の号、松岡とて、  
 八月十五日放生會あり、同十六日流籠馬相模あり、又二月十一月  
 初外日高儀あり、社領の永樂儀八百四十貫文とて、  
 一郷の古代の風俗あり、  
 鶴岡八幡宮の里、  
 鶴岡八幡宮の里、  
 鶴岡八幡宮の里、

折松

鶴岡八幡宮の里、  
 鶴岡八幡宮の里、  
 鶴岡八幡宮の里、

左馬頭督、  
 基氏、

本宮

鶴岡八幡宮の里、  
 鶴岡八幡宮の里、  
 鶴岡八幡宮の里、

右馬頭

武内社

武内社、  
 武内社、  
 武内社、

豊饗間

豊饗間、  
 豊饗間、  
 豊饗間、

七社の神

七社の神、  
 七社の神、  
 七社の神、

若宮

若宮、  
 若宮、  
 若宮、

祭神

祭神、  
 祭神、  
 祭神、

下之宮

下之宮、  
 下之宮、  
 下之宮、

所

所、  
 所、  
 所、



松ヶ岡稲荷社 本社の西の方丸山とす所あり知れ今此本社の地あり  
由井屋より八幡宮遷座の時此地に移せ故に地主の神とす  
三傳 熱田 三輪 住吉の四神あり宮の東にあり又和意 源太夫

末社 蛭子神の三社の西の方あり  
上の宮右の階の下 頼朝祠 本社の西の方圓廊の外あり  
白鹿明神とす  
頼朝の古像ありトた住吉右不登久安以傳云傳頼朝家々の建  
立といふ毎歲正月十三日を樂祭として神事あり

神明宮 又室内に地蔵あり  
又堂内に地蔵あり  
愛染堂 頼朝祠の向ふあり愛染祭あり運慶の他

竈殿 頼朝祠の西の方あり神位所  
寶滿菩薩あり

影向石 本社の西の方あり相傳正應二年二月四日影を風雨して  
てふふ現れ供僧圓頓坊の妻不座不冷の補陀を聽聞の  
あふ龍神さふあり

鶴亀石 影向石の西の方あり  
鶴亀の形あり

六角井 圓廊の外の方あり六角堂の内  
法泉あり故に名とす

銀杏樹 石段の下の方あり東鑑云永久元年正月廿七日 將軍  
頼朝々右大臣頼朝の居不八幡宮社 念の時頼朝は連ん  
衛退出 ぬ其時當社の別當阿圓梨公曉石階の階ふあり  
待て銀杏接實朝々我々あり相傳つ公曉は根杏樹のりふ  
又東の方ふ柳樹あり

轉輪藏 下庭の方あり相傳つ寶朝々宋本の一切経を求て建曆  
元年十月十九日 永福寺に於て 供養せられふ藏あり

護摩堂 輪藏の西の方あり五大尊及び運慶の他大威徳明王の乘  
り牛の足膝あり先より傳云義経は調伏のとき膝を  
折しし

藥師堂 下の宮の東の方あり薬師如來十二神將と安ん  
東鑑ふあり神宮寺と稱れ

柳原 薬師堂の傍あり古柳あり  
土人傳つ古柳あり

年屋 鶴ヶ岡の柳原よりなる年屋あり  
はかみ兼金右大臣實朝公とす又一説は小糸泰時といふ俱非  
後人 多寶塔 東鑑云文治五年三月十三日 塔供養あり

鐘樓 塔の東の方あり塔大サ三尺五寸厚サ三寸五分  
馬書に堀川大納言忠親卿と

夫當宮者馬臺東戌之洲鶴岡甲區之地模男  
山之宗桃弘尊廟之推扉以降禮神之周頌祇  
之堂焉禮頌不儼春禴之奠秋嘗之儀矣春秋  
幾回鎮護年尚答貺日新然開去茲迎姑洗不  
圖欠靈祠肆深仰玄鑒忽跂經始課般極兮是  
尋是尺用規矩兮不愆不忘土木之勤既雖及  
兩祀斧斤之功殆可謂不日傍斯苦壩而復焉  
基先擊蒲牢而發鐘音乃作銘曰

治鑑甫就 寶器鑄陶 龍文製妙  
 鳥巧奇標 形非哆喻 聲不嶽窳  
 應陰陽律 入宮商調 小大共振  
 清濁孔昭 帶霜早和 隨風自搖  
 式驚千界 高徹九霄 梵響無斷  
 真三會朝

正和五年二月日

實朝祠

本社の坂の下にあり柳宮明神と号し

二王門

本社の正面より左右金剛力士が守り頼小松岡山と書し

赤橋

本社より石の及橋ありつと五間小中三間也

神池

赤橋の左石あり東の方北池中小三つの池あり西の方北池小四つの池あり初め東西不四池あり合て八池之平家の八池不御ト云く東方より北の池あり

辨財天祠

東方の北中小あり辨財天の像を運慶の他藤小琵琶に携ふ相傳り小松内大臣重盛の持尊と云

二鳥居

石柱二及橋の南ありは鳥居ふ松宮山と云ふ藤舎後公記

段蔓

社より由井段蔓と云く道の真中高一尺高六寸許高式人の道あり

妻津を体りれ之若れ花小のよる雪の下道

法下光更

の社頭より由北の段蔓と云く道の真中高一尺高六寸許高式人の道あり

二鳥居

一鳥居より二鳥居まで

二鳥居

四町十五石半あり

二鳥居

四十五間南に石柱二鳥居あり

新宮大権現

坊中我覺院の白みより左の方へ入る中寺何許あり

後朝帝の尊靈を鶴岡の乾の山に麓に祭る云々

神主館

馬場小路に居り大伴氏と云ふ頼朝の書翰代々

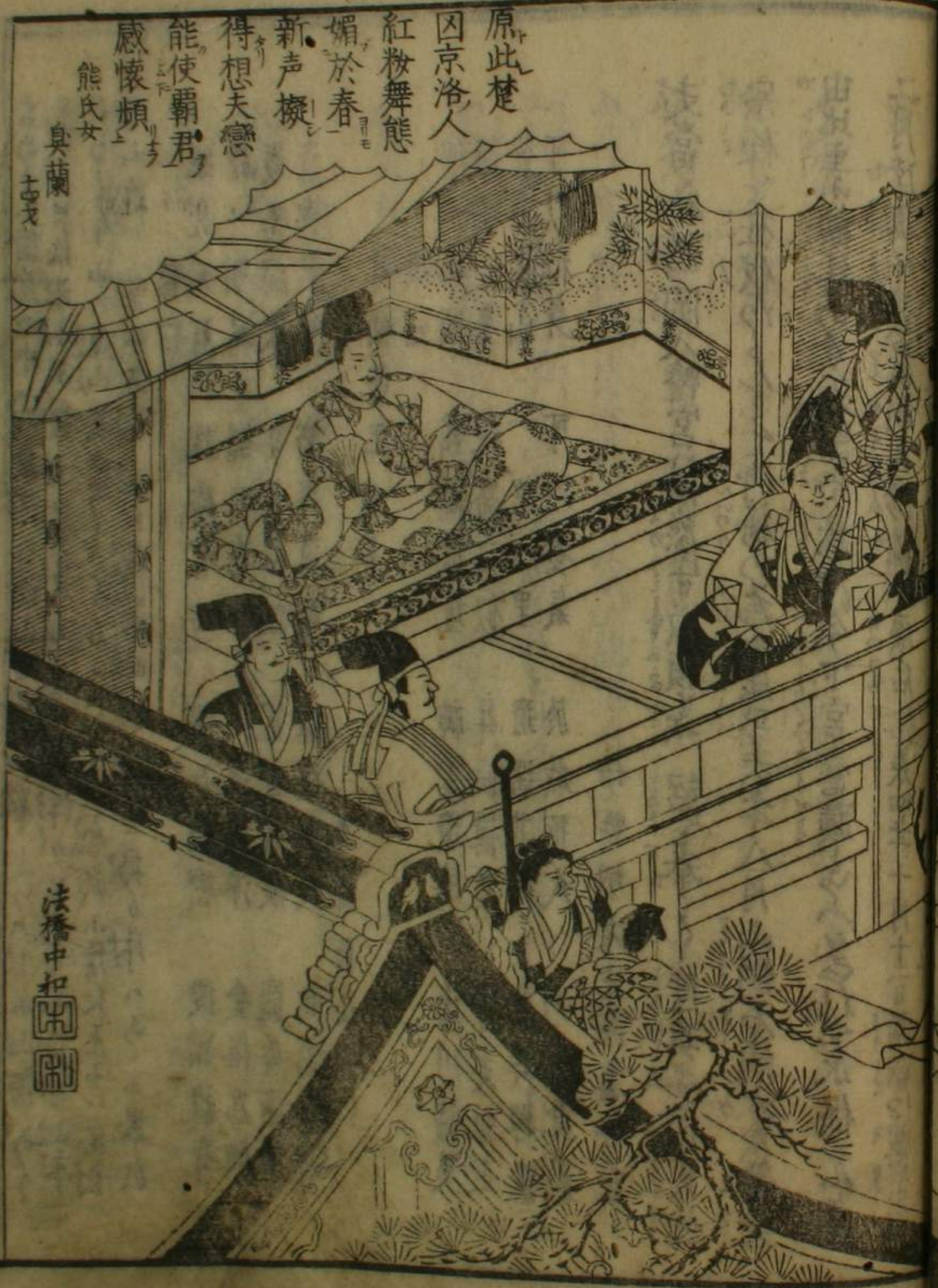
十一院

鶴岡西の方ふ居り高社の供僧あり

- 惠光院 増福院 海光院 正覺院 我覺院 淨園院
- 香象院 莊嚴院 相承院 安樂院 等覺院 最勝院

於鶴岡若宮  
静女飄舞袖

うのよ  
みのの  
あつる  
入あ人の  
乃ぞ  
急し



原此楚  
囚京洛人  
紅粉舞態  
媚於春  
新声擬  
得想夫戀  
能使霸君  
感懷頻  
熊氏女  
臭蘭  
十四天

法橋中印



右の十二箇院の中、莊嚴院の後山と後藤院の山と、  
見つては西の富士山、東の海、南の山、北の山、  
のやうなり、少の連山、峯々、右の山、  
ち山、近く、登り、中、少の、後、踞、峰、の、  
俗、と、揚、る、序、の、小、畧、の、

維此天府 雄據有時 盤互疊巒 俊踞維奇  
層巒斷崖 關之有誰 維清維淨 金倦為師  
巖樓澗飲 泉耳療飢 富貴脫蹤 寵辱兩遺  
意與體寧 樂與道明 維微期人 此焉有斯  
昇仙臺記 序畧 東都西山乘

殷之鶴岡 霸圖故址 神靈遺威 山川鐘美  
節彼一峯 後路之似 昇仙構堂 方丈知止  
蒼海雲山 一望一里 道遥其中 安詳禪意  
可以和身 可以養氣 於戲哲人 乃有此社

支當社鶴岡八幡宮の伊豫守源頼義 詔と奉と陸奥安倍貞任

宗任と征伐のつとて神徳の為小原平六年八月山州石清水に鎌倉  
由比里小勸進ありて鶴岡と稱す今下宮舊蹟と云ふこれ永保元年

二月陸奥守義家朝臣修補を厥后治承四年十月十日頼朝に祖示  
崇んや小山林郷の山に山脈開く由比里の鶴岡の神殿あり

ゆゑ然れども鶴岡の由比の舊跡をれ小松岡小遷して鶴岡と稱す  
我れより莊嚴なる宮殿巍々として將軍家時々治るゆゑ東瀛小

足たり治承の以後頼朝義経中不和小成らせゆひ静のあは涼倉  
小呂て義経の傍に居るんが為小は鶴岡宮の神前ゆく歌をあり歌

二后祐経銅拍子の畠山重忠あれと仕る回を神祇詠一茨木の歌  
と詠つて静が空幼飛ぶ舞の風俗頼朝の政子も奥小原一列座

の番候も目か驚はたつり  
志州や志は懐りてははたつりやうと今小をさうもつね

静い其の困るわれを去髪花顔去風小芳一と楹と挿つて  
華濃之月と錢と歌扇と一者小東て素衣と一聲ハ玉と鳴る

めく簾一と采塵さびる翔かやせられ上下に感賞大方ゆひ静ハ  
まと暮人の音韻なり恩愛は涙のなるやうと頼朝卿は胸に

海くさつはもろくくしと海はまろくくしと  
一のふれが義経の墓を祀らるる一とい時  
の歿黨のめいこふを怨心報せんとい又  
張く嘿々たる倭臣連なる頼朝々治國の  
計畧と我ちしれる當宮社奉の時途中  
法政解セ根は猫の音燈贈らるる狐當  
三日八月十五日の神樂渡りて石清水  
あは流鏑馬ありて毎歳大儀の大野  
してこれ狐勤むむ頼朝の上遠の足  
後少一々時々將家所修補絶む人  
實小園八州一の宮殿山魏然する事  
又秋あり

右大将頼朝館址

館舎あり所々東の門あり西の門あり

法華堂

頼朝館の小山にあり今之の法華堂とあり相傳頼朝卿  
持伴堂といふ下相兼院云々

本尊如意輪観音

又弥陀地蔵安ん  
由此里の長者藤屋太房大時忠の持伴より

自休藏主像

又此里の長者藤屋太房大時忠の持伴より

頼朝卿墓

山あり

鳥合原

鳥合原の墓あり石の五恒石燈燵石花籠石窟の中  
親和八十歳謹書

寺巳亥二月漢唐中將重豪建之兼茂明侯之令東都龍淵  
鳥合原の墓あり石の外れ鳥合原の相傳ノ相模入道高時あり  
向奉調將軍家實朝及度々云云而今日當幕  
下將軍御忌日泰彼法花堂念誦讀經之間懷  
舊之淚相催註一首歌於堂柱  
名とせふ不詳

護良王  
竈土牢



法橋中和  
印

大塔宮二品親王ハ  
後醍醐天皇弟ニ官  
みて總明殿智平  
ゆ〜東宮ふも立  
ゆ〜と運乱の世  
ありく武家捕れ足利  
直義々々討つて源  
二階堂ヶ谷の土牢ふ〜  
困〜ありつゆふ閉ぢ修  
〜然〜も魯公子  
翠蕭〜隠と獄と  
た〜いあやあ〜ん



篠倉十橋 琵琶橋 筋違橋 歌橋 脇が橋 裁許橋 什磨橋  
惠堂橋 逆川橋 乱橋 十玉堂橋等あり

畠山重忠第 西少小あり 大桑村へある筋違橋の

蛇谷 宮の東少小あり 砂石集云むり 蛇谷くふ住る人の娘宮の  
僧坊の児孫多く人供してつひ入れどもあざり 後よりくふ  
物類 成りたりりの娘を産して終小室くありたり 蛇谷く  
父母りや 蛇の窟の隣りり 蛇を大蛇の蛇と向ひ居より 蛇の窟も  
見の殿 蛇谷くひりり 附権孤用に見れば大蛇有て  
は伊人ふ名とく

荏柄天神 大桑村の東金匠道の山小あり 多神天満神 尊像ゆく 神坂  
肉小五勝六腑あり 又頭中ふ十二面観音を 藤心社傳云頼朝々  
己あふりの袖信心社領十九世共百多門の字 藤心社傳云頼朝々  
小桑氏直の後社小郎に殿く 藤心社傳云頼朝々 社傳云頼朝々  
今ふなして什磨と云

覺園寺 二階堂村小あり 鶴拳山と号れ 宗義四宗兼掌  
京師泉涌寺の末寺と寺領七貫百あり

本尊薬師併 日光月光十二神將 苦小運慶の他高寺開山の願行  
上人存願の小桑義時再興の足利將軍 尊氏あり

黒地蔵 龍藏堂小安の願の大池反と書け 寺流云い地蔵尊地  
獄とめり 罪人のく 寺流云い地蔵尊地 罪人の  
の窟とく 黒く煙のふと 毎年七月十二日 衆人法く 面像と  
粉也とく 又一説小井のく 黒くあると 寺土人火焼地蔵と云

大楽寺 覺園寺の下 龍谷小あり 龍谷山と号れ 律宗 龍山公珍和尚  
本尊 不動 藤心上人の龍谷 龍谷山寺の不動と傳云い 試云  
明王願の他

明王願の他 某師 彈孤安火

縁倉十井 六角井 龍立井 龍井 取落井 鐵井 白水井  
有井 底眺井 星月井 石井 寺へ 龍谷下あり 寺へ

棟立井 某師 堂谷の山上あり 相傳り 弘法大師  
は水と云く 龍谷

大塔宮地牢 二階堂村の山小あり 宮中 十等 寺流云い 首塚は  
二階堂村の山小あり 家上 石塔 築地建

建武元年五月二日 大塔宮兵部卿 渡良親王 弘足 直義 うち  
十六年 龍谷

なる縁倉下 二階堂小土籠 臥塗て 塔の寺あり 寺へ 足利天下  
狐保吞せん下 意をれば 親王と云 後坊を 例を 伊賀守 義博 小令

は 例を 喪て 承り 建武二年七月廿三日 山内より 主従七騎 例を  
一宮のゆき 籠の所 奉り ね 宮の 園秋の ぬき 土籠 小朝

寺の 例を 尚焼と 概け 所 終遊り 寺の 例を 寺の 終遊り

寺の 例を 尚焼と 概け 所 終遊り 寺の 例を 寺の 終遊り

寺の 例を 尚焼と 概け 所 終遊り 寺の 例を 寺の 終遊り

寺の 例を 尚焼と 概け 所 終遊り 寺の 例を 寺の 終遊り

寺の 例を 尚焼と 概け 所 終遊り 寺の 例を 寺の 終遊り

寺の 例を 尚焼と 概け 所 終遊り 寺の 例を 寺の 終遊り

寺の 例を 尚焼と 概け 所 終遊り 寺の 例を 寺の 終遊り

寺の 例を 尚焼と 概け 所 終遊り 寺の 例を 寺の 終遊り







狩野縫殿助永俊圖



あとしがらち  
青砥叡智  
えんがのま  
天下才

天台山 一遊亭の山は山崎の藤倉將軍築くり魁門ふあつて久松師

歌橋 在栖天神の東小あり

文覚屋敷 頼朝御趾の南小あり頼朝々々義兵とよる

大御堂谷 文覚を安の東小隣り頼朝々々初て建立し一甲

釋迦堂谷 大御堂の東小隣り小糸泰時亡父義時

唐絲路土牢 釈迦堂谷の南小窟り其内小石塔多くあり

杉本觀音 所のすまき表之南基の行基僧正

本尊十一面觀音 慈覺大師の他を石表之共ふ十二面觀音を其表心の他

滑川 右の河基の他を石表之運慶の他

書砥左邊門藤綱といふ者かふく仕一々ふの七燈袋ふ入れて

持たる後と十ヶ滑川へ我落たりたりと少事れ物かれをりて

へかりと以外小周章て其名の町屋人を走らり後五十ヶとつて

續松と十把買てあれ燃へ遂ふ十ヶの後と搜し得たり々々威人五年

文の後と求らんて五十ヶ續松燃て燃したる小利大損哉と笑

くれが書砥左邊門眉と擧てさればや我御邊達いあて其の費取も

志しん民以恵む心をさくられ後十ヶのみ今求む滑川のある處に

承く失ぬべし其が續松の五十ヶありあ人お留て承くとるるべ我

擧い高人の利之彼と我との差別がらる彼此二十ヶ後一と亡ぞ

豈天下れ利ふ非むと瓜弾としてかされたる難とて笑はる傍の人

人の舌以震て感れり多は北條時頼に上聞小達しくれが青砥

石て天下れ政勢れきと彼以蒙らり一免ぬふ

淨妙寺 杉本寺にあり禪宗藤倉五山其其一之無山退耕和尚

佛殿阿弥陀佛 無山塔に光明院といふ無山の木像あり

尊氏第蹟 淨妙寺の東に芝生の地に將軍尊氏の櫛ふして公方屋敷の

五大堂 將軍頼朝の折損あり

將軍頼朝の折損あり



巨福山興國建長禪寺

巨福山の西に巨福路あり禪宗傳家

佛殿濟田地藏尊

已前地名地藏藏尊とて犯罪の者に罰せらるる

て、趾を小糸時頼の代に田とて重利ありて折罪ふ及ふ大田取  
二、刀を以て更ふ加れに刀とて折罪ふ及ふ大田取  
海田殺て我ら小地藏尊に信じて身は放るる今も髪の内小鏡を  
つゝろれぬれに地藏尊の像ありて背小刀の痕あり君臣大ふ  
歎異して神田ヶ林とて杖に高ち建立の時されと胸中小鏡を  
盡か僧郊の作り申す神田ヶ林とて杖に高ち建立の時されと胸中小鏡を  
左常、太元、章、天、感、應、使、者、聖、德、太、子、千、石、觀、音、文、殊、

高山

高山塔外門の額 同所中白の額 圓鑑 昭堂の額 高山の額

舍利樹

舍利樹の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

高山

高山の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

龍王殿

龍王殿の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

藍碧池

藍碧池の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

銅碑

銅碑の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

建長興

建長興の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

國禪寺

國禪寺の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

山福巨

山福巨の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

海東

海東の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

法憲

法憲の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

天下禪林

天下禪林の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

佛殿梁牌銘

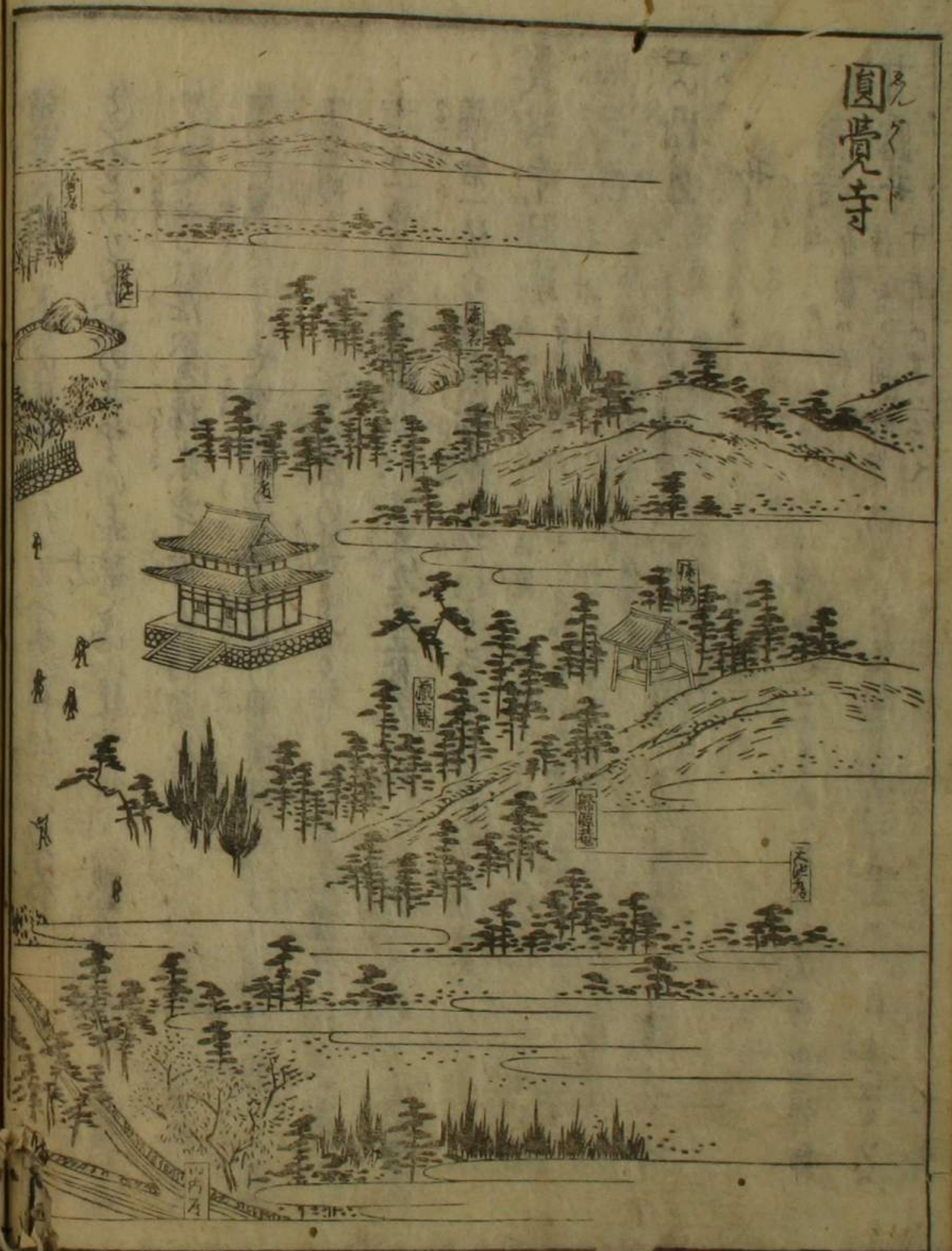
佛殿梁牌銘の額 昭堂の額 白眞の額 高山の額

夫高山の 後深州院宇 宇建長元年の創建なりて角山の宋園大覺  
禪師 禪の道隆又蘭溪と号し本願の小条相模守平時頼之併殿  
は莊嚴微妙にして又井の画を持燈元信彫物の方々を修め佛といふ  
殿内に傍にお陣陣陣を鼓あり寺僧をこれ頼朝の富田の牧野の時  
周ひの真とて我金龍水の西の門におあり鎌倉五木の其一箇之勝上巖の  
方丈の北の高に山といふに團溪の坐禪窟ありむり一禪師は  
窟中に静坐し一ゆふ所一過上人来りくむか以依ゆふ

とまろをのまろてたおもあるとひありていふ五箇に 一過上人  
禪師 五箇に 一過上人  
彌のその存を徳を小雀の驚けまゝに瓜つゞとるるをいふ 大覺禪師  
善嚴塔の趾の後山へくる路の左あり觀瀾園の禪窟は赤ありて今  
の廢せり仙人澤の幽閑の地あり勝上巖の西より不老水の仙人澤の  
傍におありてこれ五水の其一負とて院中今僅十八院ありて  
其中の玉雲庵より女杖大十五童子深安弘法大師江島にて二万

護摩の依依 其時之灰を自他へのふと或の蛇形を財をの望雲窟ありて  
といふとありて五水の其の二の和都て高山建長禪刹の典麗真妙なりて落ふ  
つゝ建長をたを瓜を掃木を掃とて清潔なるけ登之今むりおありて  
院内寂寥として寶閣雨落ふ落り丹青斑ありて落花流く香  
を空芳しくして糸禪の基とありむり小条の熾るる代ありて  
十う一ゆとも速りて今れ寺産九十五貫九百みとて永後の後りといふまろ  
鎌倉一洗の旅客の押解小導れくろ小到らばといふ事あり

- 最明寺 旧跡 山之内のふりり 福原山禪真寺といふ園東禪院十刹の其一也  
本願の平時頼ふしてむり一七堂伽藍今廢ちてあり
- 明月院 最明寺の末あり 南山の大覺禪師の法孫密室守嚴和尚  
本願の上杉安房が意なり
- 六の國見 明月院の十系の一也 此の上の方といふ 安房 上總 下總  
武藏 相模 伊豆の六の國なる
- 龜井 明月院のうへに海口あり
- 十井の其一つ
- 淨智寺 明月院の向ひあり 鎌倉五山の第四の南山の宋併源禪師  
本願の平時頼
- 甘露井 淨智寺の南山塔の後あり 又門外左の路傍にあり 清水流して  
十井の其一つ



圓覺寺

瑞鹿山圓覺禪寺

山之内ふりり鎌倉五山の

寶冠釋迦佛

佛殿小安に脇土梵天帝釋

選佛場

佛殿の西ふりり

方丈

佛殿の東ふりり

瑞鹿山

總門の額

開山塔

方丈の西山四町并ふりり

坐禪窟

開山塔の上方ふりり

妙光池

方丈の

虎頭岩

妙光池の

洪傳

佛殿の南の方上方ふりり

鐘銘

相摸州瑞鹿山圓覺興聖禪寺鐘銘

鶴岡

之北富士之東有大圓覺

賢聖

躡象龍範圍天地

銀鑲

頌銅成大法器啓迪

停酸

息苦超越焚龍高

湯聲

震家中風調雨順

重臣

千秋正安三年辛丑

從四位

上行相摸守平朝臣

器當

寺住持傳法宋沙門

什寶佛牙舍利

傳云將軍實朝公

宋國

贈佛舍利

拈高山

後宇多帝

創建

少く開山を宋國の人

來朝

傳へ元言釋書小載

少く

伽藍珍瓊子院

たり

殊勝の禪窟

刹共

不轉任の号今小於

東慶寺

田城の女ふりり

田城

の女ふりり

東慶寺

田城の女ふりり

東慶寺

田城の女ふりり

東慶寺

田城の女ふりり

長壽寺 長壽寺の彫刻は少く、延秀、泰和尚と云ふ元平、蓮藏の時の八歳正保二年二月七日入寂し、中入佛殿の法石塔婆あり、寺の鐘百二十貫文

本尊釋尊 本尊釋尊の像あり、又、薄氏公の像あり、むすひ、伽藍、魏々として、

常樂寺 常樂寺の像あり、初、天台宗、龍溪、入院、後、禪院とあり、寺を、孫陀云々

本曾塚 本曾塚の上方より、傳云、氣仲の嫡子、信水、冠者、義高、鎌倉あり、

鐵井 鐵井の西南の砂、傍あり、鎌倉十井の其一と云ひ、鐵の鏡、其の

松原寺地蔵尊 松原寺の西あり、は不動尊、石像あり、

窟不動尊 窟不動尊の西あり、は不動尊、石像あり、

奉福寺 奉福寺の像あり、後、會五山の末之、山、千光、國師、兼、西之、原

本尊龍釋迦 本尊龍釋迦の像あり、唐の觀音、佛、小、編、張、り、あ、る、

實朝塔 實朝塔の像あり、中、小、り、り、中、央、小、石、塔、婆、安、ら、千、光、國、師、實、朝、の、歸、依、僧、

東光山英勝寺 東光山の像あり、北、山、大、田、道、繼、田、村、大、田、氏、英、勝、寺、

本尊河沘陀佛 本尊河沘陀佛の像あり、運慶の作、像、安、ら、左、右、の、本、尊、法、然、の、像、り、額、の、

山門額 山門額の像あり、英勝寺と書け、後、水、尾、帝、の、宸、簡、之、裏、書、云、

總門額 總門額の像あり、東光山と書け、裏書云、寛永二十年四月十一日

鐘樓 鐘樓の像あり、相陽、鎌、倉、英、勝、寺、鐘、銘、

石盤 石盤の像あり、其、文、を、の、り、

此流、不、化、惟、暮、一、人、星、朝、清、蒼、象、深、拂、盡、一、得、嶮、峒、朔、方、化、今、千、茲、隆、



阿部尼塔 英嶽が塔北の方より尼公の遺跡の辨論あり居相々共小

源氏山 英嶽の西の山に八幡が身義家東夷征伐の時さ小旗と

泉井 泉谷ふあり保倉 十井の其一つあり

綱引地蔵 淨光明寺の山中ふあり昔由比度より漢又の細小のりてより

矢拾地蔵 淨光明寺の境内に思慮ふあり傳云原直義のち存せり

扇井 扇谷ふあり十井の其一つあり

海蔵寺 同所ふあり本寺の噴茶師といひ山中ゆく毎夜児の泣聲あり其地と

底脱井 海蔵寺の頭と地歩八崩山の原義知有大覺禪師の法嗣と

十六井 海蔵寺の山中窟の内ふあり土人云 弘法の加持水と云

景徳庵 化糞場ふあり傳云悪七毒常信以捕へくふ筆を

假粧段 扇谷の西にあり

鍛冶正宗宅 今小幡橋の町に正宗が又丹光貞應の以保倉ふあり

佛師運慶宅 正示の西に運慶の 佛師東の伴師と

巽荒神 今小幡の南ふあり今ハ淨光院寺に 玉泉院の持し

人丸塚 巽荒神の東島の中ふあり人丸塚の七毒常信が如し

尊氏第蹟 人丸塚家の前の園に尊氏第の 徳倉小三所あり

典禪寺 赤福寺のふあり崩山の奥州松海居禪師奉願の朝倉統後寺が

裁許橋 傍の川にあり

佐々稻荷洞 佐々谷ふあり毎年二月初午日鎌倉中群衆を馳騁あり

隠里 千巻の三浦の女に之を以て住せり

銭洗水 隠里の窟中小あり福神ふあり後と改ふを

天狗堂 鎌倉五水の其一つ

天狗堂 傍の谷ふあり

天狗堂 扇谷と小幡の間に書

天狗堂 扇谷と小幡の間に書

天狗堂 扇谷と小幡の間に書

天狗堂 扇谷と小幡の間に書

天狗堂 扇谷と小幡の間に書

千葉常胤宅 狩野堂の本の方より

佐々目谷 藏濟橋の西面むらうは谷小法然上人の弟子

塔辻 七重石塔安住谷東面の道傍に二所あり古代の躰に塔

小町口等 ゆをり土人藤云むう油井長者條をたす時中心の子

所あり あれ我子の骸あんと菩提のる小落敷り

盛久頸座 塔の南に土門を築かば水浸善の靈験あり

甘繩祠 佐々目谷の西小あり天照左神祇あり又八幡を祀り

藤九郎盛長家 甘繩祠の東に土東鑑小治承四年十二月氏衛親朝初て

金谷 土人稲瀬川といふ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

真 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

東流 あなれ勢川小川と名の勢流と云ふ月雨のよみ

一、同日の給  
 あらめと其に  
 よう人みか  
 西上人の徳と  
 賞一たるを  
 定えし



西行上人の  
 將軍家の  
 軍法と  
 軍家の  
 徳と  
 賞一たるを  
 定えし



高岩拙畫

御樂嶽 大伴の東に  
山とつゝ

萬葉 御樂嶽  
御樂嶽の山とつゝ  
御樂嶽の山とつゝ  
御樂嶽の山とつゝ

徳念寺 徳念寺の山とつゝ  
徳念寺の山とつゝ  
徳念寺の山とつゝ

常盤里 常盤里の山とつゝ  
常盤里の山とつゝ  
常盤里の山とつゝ

長谷寺 長谷寺の山とつゝ  
長谷寺の山とつゝ  
長谷寺の山とつゝ

尊十一面観音 尊十一面観音の山とつゝ  
尊十一面観音の山とつゝ  
尊十一面観音の山とつゝ

御霊社 御霊社の山とつゝ  
御霊社の山とつゝ  
御霊社の山とつゝ

星月夜井 星月夜井の山とつゝ  
星月夜井の山とつゝ  
星月夜井の山とつゝ

貴戒寺 貴戒寺の山とつゝ  
貴戒寺の山とつゝ  
貴戒寺の山とつゝ

本尊泥藏 本尊泥藏の山とつゝ  
本尊泥藏の山とつゝ  
本尊泥藏の山とつゝ

徳宗権現 徳宗権現の山とつゝ  
徳宗権現の山とつゝ  
徳宗権現の山とつゝ

北條屋敷 北條屋敷の山とつゝ  
北條屋敷の山とつゝ  
北條屋敷の山とつゝ

土佐房茅趾 土佐房茅趾の山とつゝ  
土佐房茅趾の山とつゝ  
土佐房茅趾の山とつゝ

今もかき星月夜井の山とつゝ  
今もかき星月夜井の山とつゝ  
今もかき星月夜井の山とつゝ

極楽寺 極楽寺の山とつゝ  
極楽寺の山とつゝ  
極楽寺の山とつゝ

い道小星の神堂 小星の神堂の山とつゝ  
い道小星の神堂の山とつゝ  
い道小星の神堂の山とつゝ

徳宗権現 徳宗権現の山とつゝ  
徳宗権現の山とつゝ  
徳宗権現の山とつゝ

北條屋敷 北條屋敷の山とつゝ  
北條屋敷の山とつゝ  
北條屋敷の山とつゝ

土佐房茅趾 土佐房茅趾の山とつゝ  
土佐房茅趾の山とつゝ  
土佐房茅趾の山とつゝ

今もかき星月夜井の山とつゝ  
今もかき星月夜井の山とつゝ  
今もかき星月夜井の山とつゝ

極楽寺 極楽寺の山とつゝ  
極楽寺の山とつゝ  
極楽寺の山とつゝ

葛西谷

葛西谷 葛西谷の南の谷に地小むり、東勝寺とつゝ山家代々の

相模入道も東勝寺に於て後切の城入道は、腹を切たり、

あれが、堂上小座、烈々、一門他家の人を、骨と推肌、

て腹切も、白頭、松捲、落も、思ひ、最期、体特、由々、

抱えたり、中、惣、其、門、業、人、百、八、十、三、人、我、先、中、復、切、て、屋、形、火、

登、これ、猛、火、熾、ん、燃、上、り、黒、煙、天、と、捲、く、屋、上、門、小、並、居、り、る、兵、

是、派、見、て、或、は、自、復、接、切、く、炎、の、中、入、り、或、は、及、子、早、身、返、て、重、

も、り、血、を、流、く、大、地、小、溢、れ、漫、々、て、燃、り、の、や、れ、ハ、以、路、小、横、で、累

々、たる、郊、原、の、や、死、骸、焼、く、見、る、も、後、小、名、以、為、れ、い、き、所、で、死

さる、者、惣、く、八、百、七、十、餘、人、は、外、門、業、恩、顧、の、者、僧、俗、男、女、以、傳

安、傳、て、泉、下、小、園、報、せ、り、人、等、小、悲、松、促、せ、り、遠、園、の、年、は、去、り、兼、倉、中

松、考、少、都、工、子、銘、人、心、鳴、此、日、何、多、日、と、云、弘、三、年、五、月、廿、日、と、申、小、平

家、九、代、の、繁、昌、一、時、小、滅、亡、て、原、氏、多、年、に、執、權、一、朝、小、開、く、事、得、り、

屏風山

屏風山 實戒寺の東にあり、屏風山と云ふ

小富士

小富士 屏風山の傍にあり、小富士の石、石居、後、同、

塔

塔 實戒寺の南にあり、毎年六月、日群、

行

行 小町の西側、妙隆寺、小町、寺、説、云、日、報、上、人、は、此、少、十、粉、の、瓜、と、故、

産女塔

産女塔 同所、大、巧、寺、小、町、日、棟、上、人、の、妻、女、の、出、産、不、遇、一、帯、は、華、の、題

妙本寺

妙本寺 比企谷、小、町、日、蓮、宗、佛、上、本、門、寺、の、玉、帶、所、之、南、基、日、調、上、人

本尊釋迦佛

本尊釋迦佛 日蓮上人、豆、州、在、遷、の、附、立、像、の、慈、如、法、在、身、を、後、小、日、調、小

比企判官古趾

比企判官古趾 比企谷、小、町、比、企、判、官、古、趾、の、妻、女、の、出、産、不、遇、一、帯、は、華、の、題

田代觀音

田代觀音 比企谷、小、町、比、企、判、官、古、趾、の、妻、女、の、出、産、不、遇、一、帯、は、華、の、題

裸地蔵

裸地蔵 比企谷、小、町、比、企、判、官、古、趾、の、妻、女、の、出、産、不、遇、一、帯、は、華、の、題

補陀洛寺

補陀洛寺 比企谷、小、町、比、企、判、官、古、趾、の、妻、女、の、出、産、不、遇、一、帯、は、華、の、題

本尊茶師佛

本尊茶師佛 比企谷、小、町、比、企、判、官、古、趾、の、妻、女、の、出、産、不、遇、一、帯、は、華、の、題



法橋中印



光明寺

天照山光明寺 鎮西六爪の因白旗流義あり

本堂祀主禪師 自他の本儀に安んずる禪師の法然上人の孫身堂光上人の身子に初めは良忠然上人と号し石州の人の

弘安十年七月六日寂 享年八十九 祀主禪師と謚す 勅額今竹園にあり 寶庫小蔵む

阿弥陀堂 本堂の左あり 奉安阿弥陀像の運慶の作也 脇土 觀音を 勢至に安んず

祈禱堂 右の方小菩提大師の御坐所 祈禱の勅額今宝庫にあり

方丈 運慶の作の阿弥陀堂あり

開山塔 本堂の右あり 祀主禪師の石塔塔婆に建つ

天照山 山名の後山

記主水 山麓の麓あり 開山の御坐所 中流にあり

藏王窟 祀主水の上方あり 隠念の海眼下 隠れし窟の形也

山門 額に天照山 後花園帝の宸筆あり 裏書 永享八年丙辰十二月十五日

菩提塚 山門の外 山麓にあり 奉安小東院時

それより初依成谷あり 後寺より移す 奉安小東院時 大守平經時建

立一蓮華寺と號し 良忠上人の開山と云ふ 後小經時蓋蓋あり 光明寺

と改む 良忠の身子六人あり 六爪と云ふ 糸師の三箇ハ一條の體ハ三條の道光

それ光明寺の才ニ母ハ名義の通親あり 大塚流の祖也 高田の持りあり 六爪と云ふ 高田の祖也

本寺小して白旗流と云ふ 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時

六角井 光明寺の右あり 同名 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時

小壺 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時

新居 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時

新居 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時

新居 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時

新居 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時 奉安小東院時

藤倉漁村

藤倉村の漁業を業とする

水江之浦 鳶児之堅 魚釣 鯛釣 及 七日

後金の海小川月とつる魚の彼とつる魚との少多は此にて

なまおとれ後金の年々の物とつる魚とのれらうりつる魚

はくはくとして人々のあはれとつる魚とのれらうりつる魚

こころを捨つて物と申せりつる魚とのれらうりつる魚

入る川とつる魚とのれらうりつる魚

日守と志兼山郭公初川

守殿明神

森戸村出湯小川に三修明神と頼朝の御宇に小動落したまふ

飛混柏

祠の少なりつる飛混柏とつる飛混柏

頼朝腰掛松

社のおもふりつる頼朝遊侍亭の古跡に社の西に岩上木柱の穴

鑑摺山

道徳とつる鑑摺山とつる鑑摺山

六代河原

六代河原とつる六代河原とつる六代河原

神高

神高とつる神高とつる神高

岩殿観音

岩殿観音とつる岩殿観音とつる岩殿観音

御猿畠山

御猿畠山とつる御猿畠山とつる御猿畠山

日蓮水

日蓮水とつる日蓮水とつる日蓮水

石井

石井とつる石井とつる石井

安國寺

安國寺とつる安國寺とつる安國寺

佐竹屋敷

佐竹屋敷とつる佐竹屋敷とつる佐竹屋敷

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家

家

家とつる家とつる家



梶原第 五大堂の山原に梶原新時が宅地なり

頼煥弥陀 信馬の遺蹟の傍に信泉の遺蹟あり通上人藤原山老福寺といふ

大伴師運慶の遺蹟あり其の遺蹟に尊神あり頼主氏の遺蹟あり人形丸の遺蹟あり又下部に宗義法師の遺蹟ありは有耶多の遺蹟あり

平度常 朝比奈切通の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

梶原太刀洗水 朝比奈切通の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

侍従川 朝比奈切通の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

六浦川 朝比奈切通の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

朝比奈切通 藤倉より金次へ歩むに石原尾立より高井五丈

金龍院 金次氏の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

石 金龍院の傍に山あり高井五丈の遺蹟あり

瀬戸明神 瀬戸村海邊の例あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

祭神大山積令 延慶四年辛未四月廿六日少沙弥寂尹

瀬戸辨天 瀬戸浦の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

福石 赤天狗の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

瀬戸橋 瀬戸の社あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

照松 瀬戸の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

金澤 瀬戸の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

兼好齋蹟 瀬戸の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

洲寄 瀬戸の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

兼好齋蹟 瀬戸の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

洲寄 瀬戸の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

兼好齋蹟 瀬戸の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

洲寄 瀬戸の遺蹟あり其の遺蹟に二重の遺蹟あり

金澤山綱名寺

金沢山綱名寺 金沢山綱名寺の末派也

本堂彌勒佛

本堂の西蓮池の

愛染堂

本堂の西

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

修樓

後金志小久保の修

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より

金澤文庫古蹟

北條城後守平顯時より



金澤  
能見堂  
擲等松

能見堂

能見堂 柳野の西のふりり 藤野山麓 院と号し 寺を地蔵寺云  
堂は今の堂ハ久々大如也 原 廣之の建立あり  
捨子松 堂ありあり 藤野云々 巨龍 金剛は地ありてその  
妙あり 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

遮に近く 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
ま此堂上へ 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

浦江社 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
龍王寺 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

龜井 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
高井 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

谷村 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
遠近 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

花 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
水 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

藤澤 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
相 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

東海 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
藤澤 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

藤澤 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
相 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

藤澤 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
相 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

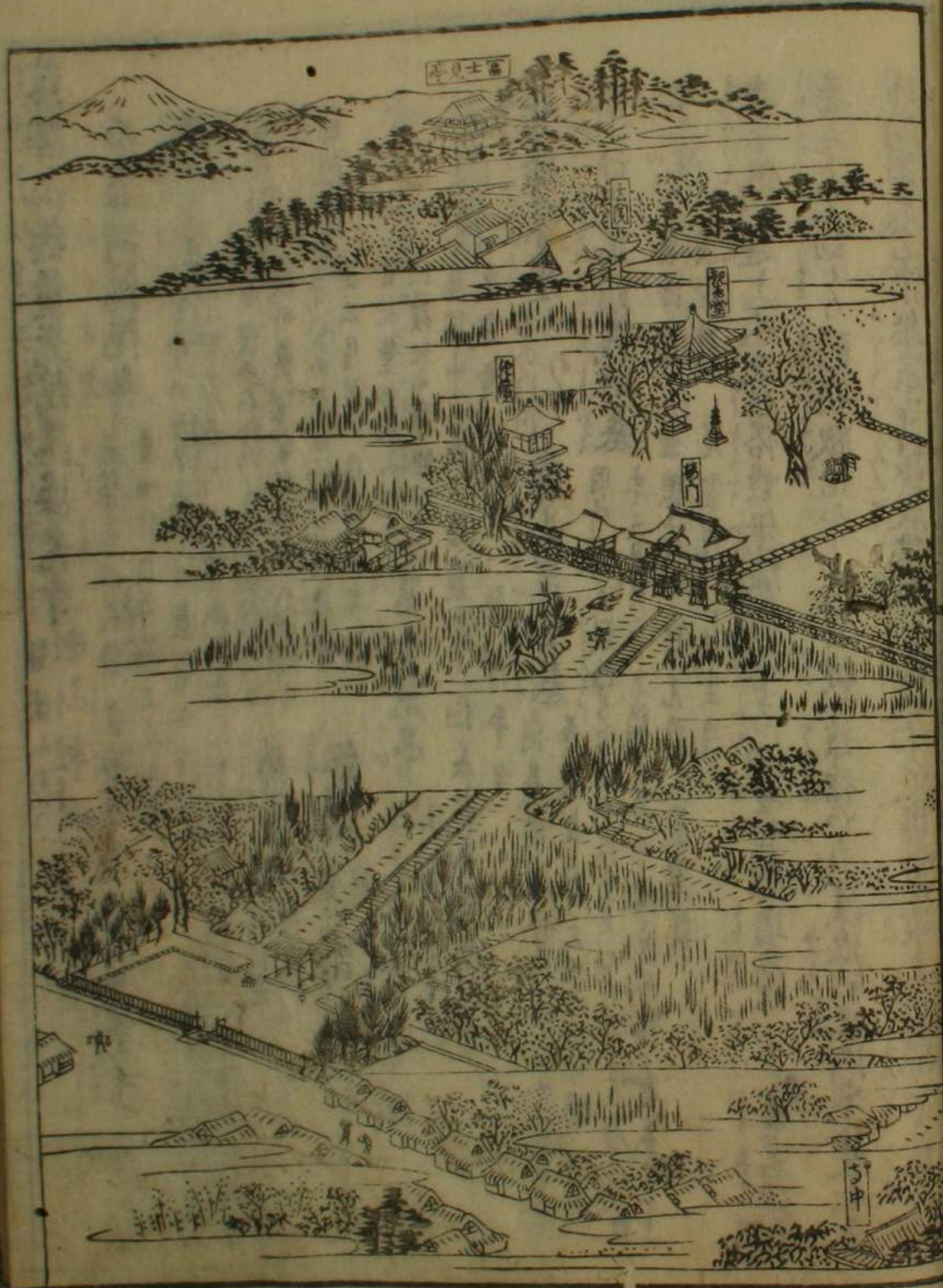
藤澤 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
相 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

藤澤 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
相 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

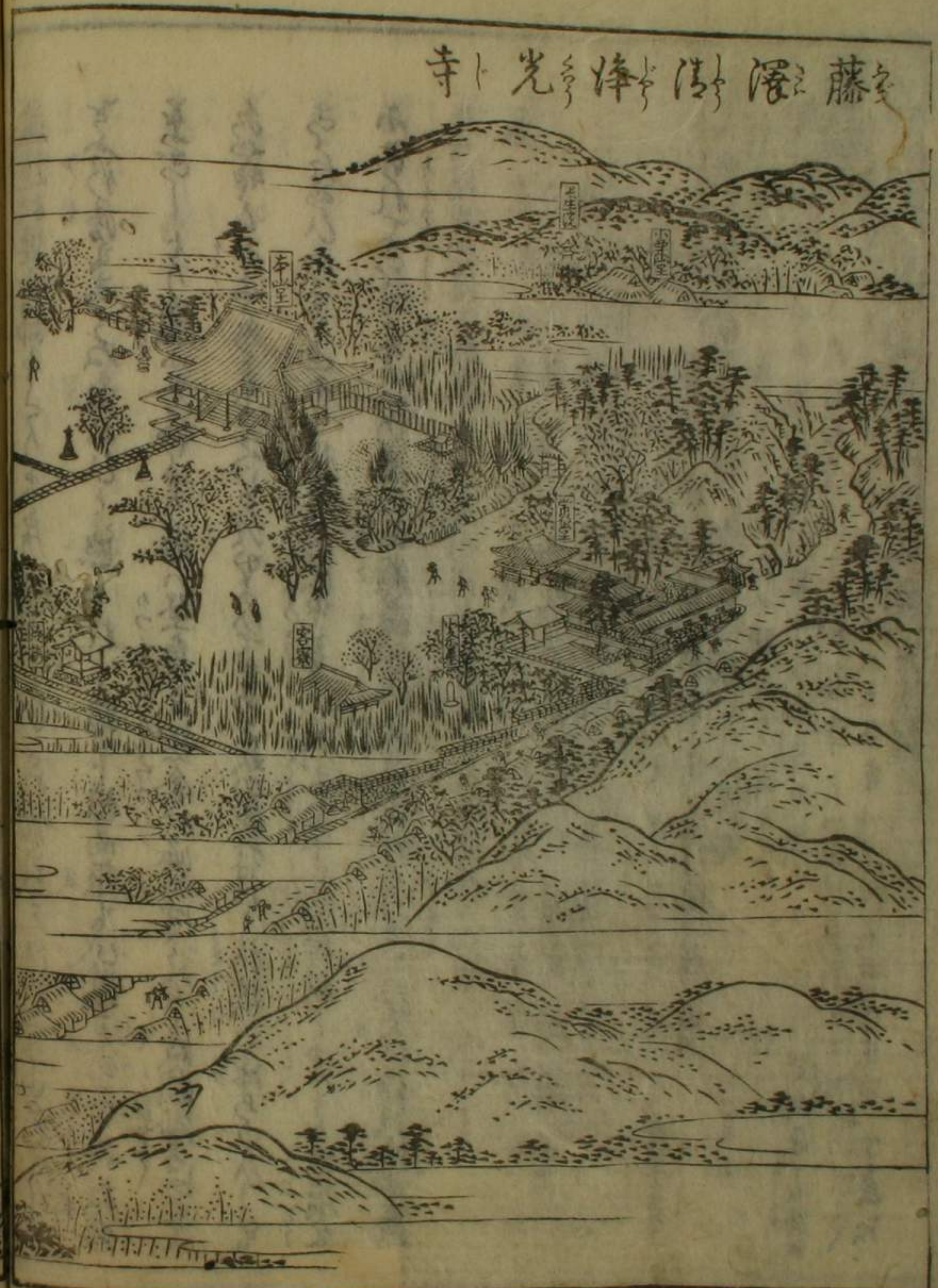
藤澤 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
相 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

藤澤 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
相 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて

藤澤 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて  
相 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて 藤野の松の下めて



藤澤浄光寺



藤澤山無量光院法淨光寺

時宗教山

本尊阿彌陀佛 在後長日尺許慈覺大師の化賜檀阿祖一遍上人像

觀音堂 本堂の左なり正觀音の安坐を以て其の寺許智慈大師の化

常行堂 本堂の右なり先岳院より

日供堂 本堂の側小なり海邊那

方丈 日供堂の心小なり 富士見亭 方丈の上方小なり 觀

三門額 藤澤山と書け勅額從二位左大臣基時卿の書

北條家墓 當山累々墓 同所なり教隆殿西の虚空天心大居士正慶二年酉

南部右馬頭茂時墓 同所なり教隆殿西の虚空天心大居士正慶二年酉

子院 真淨院 拙徳院 真光院 菩提院

文宗祖一遍上人と原俗姓伊豫國領主の聖七弟道慶の二男を名取松

壽と云ふ切なり聰明敏悟のし此菩提尊信なり 後深州院所宇建長五

年國圖文宗宗繼宗寺縁教律師と師として出家受戒 隨縁坊と號け十五

厥后 龜山院文永元年此村 浄土宗聖達上人の隨ひ名取を真と改く

易の念佛門入 聖達は法然上人の徒西山證空に隨ひ 九十代 後宇治院

建治元年此村十二月下旬より紀の熊野寺奉宮遷成殿小百日參龜念佛

安心の正路を祈願し此小聖を建治二年三月廿五日大権現示現の額曰

六字名號一遍法 十界依正一遍殊 人中上外妙好華

此文法得悟の時より名取一遍上人と改むし神勅に任て南無阿彌陀佛 決定往生

札と國中は庶民に賦課の十八年此間田圃修りぬひ九十二代 後伏見院所宇

正應二年八月廿二日攝州兵庫津に放く遷化 年五十五今直末寺に其の墓

當山の南基を以て四代吞海上人の奉願の候聖の房景平 起立の寶駒あり

て當山に奉刺せ吞海上人嘉慶二年二月十八日當山に於て入寂は辛三十一代

寺職尊親は法親王の 龜山院寺四の白子也 後醍醐天皇延元元年此村名聖

山(皇居)遷りし南朝二代 後村上帝春宮のれをさすなりて寺の寺四の宮依

儲君とされ南朝三代の帝位なりを其の廟宮方微ふして吉野十八

郷尊氏の兵威小忍れ宮方小隨從遊小宮の遊乃八世後船上人の御書

版申延文五年延文五年より應安元年まで九年は同慶寺山所在山應安二年より

永和二年まで八年は同協州兵庫津真光寺小御住持永和三年に至る徳元年

と八年は同羽州山秋光寺小止錫至徳二年より二女の同甲府一蓮寺小御

止徳嘉慶元年二月廿六日より海内遊乃の御時宗十二代目依相續ゆり

尊親上人と稱す諸國修乃同十四箇年干時應永三年秋上洛すり百二代

後小松院御宇皇胤の由編ふの御と泰内有く玉座の御座小御住持乃南

朝の御齋流乃の後醍醐天皇の宸叙小御住持後醍醐小御宮隨心院

尊果法親より遊乃尊親上人小御授與の御由致すの御遊乃十三世上人

より已後ハ代々繪首頂戴泰内の格式小御所埋國の内ニ重々自光龍顔

公爲遊乃遊乃尊親法親王應永四年は某國國修乃の事 後小松院被

達 殿御足利六代の將軍義滿公へ勅令有く高代遊乃上人の南朝皇位

の皇位たる小御所埋國の事等御守護人止有主助の類は

賄賂御應可應義老官領職御波在御門位義將義之守護人は仍ゆり

又足利四代將軍義持公より遊乃十四世の空上人回國御教書其文云

法海光遊乃遊乃金光寺遊乃時流付及人又馬粟諸國上下に中

國を以て押心判形無煩之勤過る有るは御守護人ハ也

放逐犯を所する物社進可也罪科に中御守護人ハ也執達如件

應永廿三年四月二日 御守護人ハ也判

御書同文云く足利將軍代々賜り其後織田信長豊太閣等の御教書依

の御遊乃干空滿悟上人法流依縁く後國小御村より所より

高寺歸國の時秀老公より下り書其文云

高寺上人御歸國に余傳馬扁送等事大儀

有御徒走者や仍如件

天正十七年九月七日 直江義経 判

其外 御書高山の付 又徳川徳川氏有親公の

御書十二世尊親法親王化上人より高代遊乃上人の御書

門大僧正和明吉野山小御後醍醐帝の御書三百五十四條の御書

若の下埋れぬ名のみより高代遊乃上人の御書

外園をわらうのははれたちの狐持ひりそ人の足らうん  
西川喜長

をわらうのいりふももをすくは法のたれおせめらるふ  
持り上人

宗祖一過上人より今五十三まで香く萬國を順てその菩提の徳を  
あま

甘んじ云心四候と多るの心尋併の法種と多る先遊りのつ火の  
あま

奇特現一の徳聖文権現のや並若の神札を授けのふ身己身の  
あま

強陀唯身の浄土の通を符契りる  
あま

小栗堂 友辰乃場の末を明ふり子院の中ふく張生院といふ小栗備重像  
又隆小栗拾人 鬼堂靈 崇寧通室古鉄照母の持 又豹爪

什宝 古鏡 一面兼唐草模様

小栗の事年久しく人口の膾炙きとくも正統永安のころ茶紙云入皇  
百二代徳光院の御宇將軍足利義量卿の時應永三十年の某常陸國の

住人小栗孫太郎備重といふ者謀叛の身えありて後倉官願の下知不慮に  
を善督源持氏とれと退治の召被余出陣して結城に到り八月二日より小

栗の賊と攻り小栗も去出づ一坊を殺しつれども後金勢荒れ出づ一  
責多しと方被かかり小栗の賊に奪り方多しは流りたり

止者の人常品有徳の人と隨身の財宝多し家系十代より  
いふせんといふ事人の賊云討入奮ひて身も安けれと懸りたる毒酒

を飲せし一女小栗をよといふは後意の計と用意し小栗の池を  
の俵ふとてあつたの盛姫はあつた酒其の徳はたつた毒酒

る照天といふ女小栗の腹に小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒

の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒  
の事照天といふ事小栗の遺物ありて酒其の徳はたつた毒酒





蒲生野良



小栗小次郎  
 権兵衛  
 竹林の  
 馬の上の  
 王の  
 情の  
 あ

神奈川 駿の  
新芝生  
久曾 神祠  
あれかし  
うの穴を  
いり



人穴の  
真の  
宮の  
あれ日本の  
桃花源  
形



江戸  
葛藤政美 画



大師河原  
平向寺

後浦遠秋處生  
紅長万里與天平  
波同一望千帆影  
半入春風塵岸清  
大師河原  
釋隆圓

春泉圖

相模 程谷まで武里九町遠金葉花の時の林ハハキ  
戸塚 南小川の方より川戸小なる宿中川の宿編れ小若田宿といふ  
武蔵 戸塚より江の尾送金道に葛岡へ武里長谷懸谷へ武里半  
相模の國境 遠本村といふ所の方  
武蔵 神奈川まで武里九町むらり程谷新町帷子さく  
三宿あり一宿長二年一驛とあり  
程谷 金沢尾倉へ江道筋右の方小あり金沢能見堂  
武蔵 中て武里餘のり  
芝生村窟 芝生村の方小遠向洞より山腹小窟なり  
武蔵 川崎中二里半は宿に船着小して旅舎多し  
神奈川 神奈川宿より風祭の橋地小して申西の方小富士山見ゆる右の方  
海邊小出寄りり軟牧十二人森と毛弁天洞あり仲を  
本牧の沖といふ又縣中へ飯綱権現洞然燈権現洞あり  
又賦の小端小浦考ちといふりり舟を正觀寺浦考ち守伴といふ  
長持村八多古の真言宗今浄土宗とあり寺競云むり浦考ち  
龍宮といふ時頼の靈體とあり寺競云むり浦考ち  
箱根山あり玉の箱とあり老翁とありはくく氣の廟所小  
西蓮寺といふ又竜燈籠といふりり  
武蔵 武里半ありり南九町許小遠本村といふりり  
川寄 武里半ありり南九町許小遠本村といふりり  
堂内小入り通ぬる

武蔵國を  
 郡のあつゆ  
 玉川といふ  
 六つ玉川の具  
 一ツ玉川の方  
 今も昔あり  
 今この郷村の  
 中めれを俗に  
 六郷川といふ  
 又上六郷里  
 一七六八向川  
 ともいふ

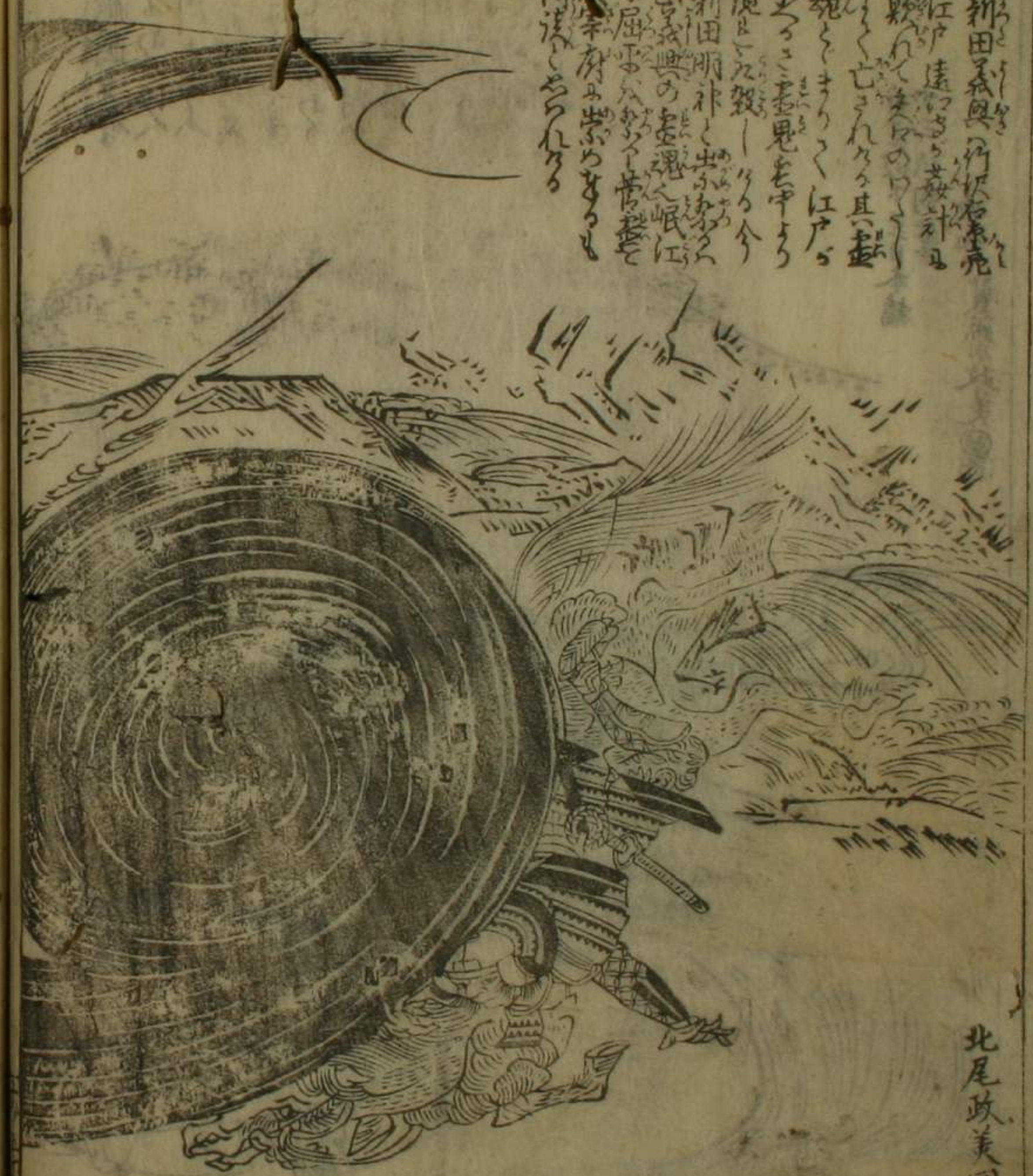
自是以下至日本橋  
 十三紙同筆  
 東都 實齋政美



拾遺志  
 玉川小  
 三三寸  
 石はさう  
 けりくす  
 ひうれ  
 人の  
 意さるや  
 あせ  
 後人といふ



柳田義興の所伝を以て  
 江戸遠江の義興は  
 歿後其子の義興は  
 亡きを以て其子  
 魂を以て江戸に  
 現るるを以て今  
 新田明神と云ふ  
 其義興の遺徳を  
 以て江戸に  
 同法に云ふ也



北尾政美圖

本  
 名  
 五川  
 此  
 其  
 蘇島



大師の原平回寺

武州橋脚郡川寄野人許らる村あり真言宗新義

本尊弘法大師像

長五寸堂内小愛深明王不動尊弘法大師像

延年新小待と傳て堂ふふかく  
あちのそ條へ厄除大師といふ寺説ふ云むり大治年中は浦小平回  
氏といふ漢又りり生國の者少くは年久しくは浦小平回生實正  
直ふしては三寶尊といふも家窮く貧へくは漢弘法大師  
告く云はれむり一在唐の時自依依我我日本有翠の地  
小流止海のべり海上一投す年久しくは海を流し  
て今幸ふは浦小平回は漢してさふ安んば厄除弘法大師  
永く富貴の身とあり其海上の志あり中毎朝朝み光明あり  
あれと標し漢と傳てそく養實弘法大師の感嘆して  
先弘法大師の網をあらさふ大師のそ條弘法大師の  
方の民俗ありそは弘法大師の故小一宇弘法大師の  
村の名と大師の原といふ高院小三點の秘封といふありり  
と真言秘傳と稱し大師の相傳と稱し武蔵の郡名と六玉川  
玉川の其一つありそは弘法大師の故小一宇弘法大師の  
少くは六郷里ありそは六郷川といふむり大橋あり武蔵國三  
大橋の其かそは弘法大師の故小一宇弘法大師の  
弘法大師の中より弘法大師といふ弘法大師の  
極弘法大師の原の上あり大橋の弘法大師の  
矢口渡口もりの又矢口の上あり大橋の弘法大師の

新田明神祠

矢口村のりり六郷川より十五町許西の方へ新田元と傳ふ

新田元中將

勇武果敢各將のりり又暴負然死の後も愛のりり合戦のりり

別當弘法大師のりり真言宗ありり  
新田元中將のりり又暴負然死の後も愛のりり合戦のりり  
每勢ありて勝利あり上野國小幡居一時々武蔵國小幡と相州  
鎌倉の弘法大師のりり安んば弘法大師のりり足利基氏といふりて討む  
討つとも曾て居り安んば弘法大師のりり足利基氏といふりて討む  
竹と討むとありり竹といふり竹といふり竹といふり竹といふり  
て義興も同意にされり義興も竹といふり竹といふり竹といふり竹といふり  
謀議のりり赤都より竹のりり竹のりり竹のりり竹のりり竹のりり竹のりり  
竹のりり竹のりり竹のりり竹のりり竹のりり竹のりり竹のりり竹のりり竹のりり  
斯竹といふり竹といふり竹といふり竹といふり竹といふり竹といふり竹といふり竹のりり

さひんを望んで江戸を遠征す望みある義興の味方と成て種々の謀略を  
延元三年十月十日矢口の渡りて舟に乗りてちり登陸す一は登陸す義興  
一族十三人密に渡り時登陸ぬる船を沈めし具しゆい井弾心  
義興が宙に上り上りたれ義興大を登陸して日本一の石道者お竹とぬる  
口惜しと牙を噛み自害して石のあ屑と成りたり江戸竹沢若お恩  
賞ふれり其後江戸を遠征すを願ふ歸りては矢口の渡りて舟に乗りて  
興の怨毒をりつれ登陸す時侯波のりく射るといへり山を登動し黒雲  
一村江戸が首の上を落すと云へり江戸の馬をり逆ふ落るとなるまより  
言ふはかろふ落るといへりて降ふおひ死せぬ死ふなる是のころは入  
向川の生家三百餘宇一時小旗燼と成り我興の封札一矢口の渡り小旗  
々々お出せりゆとて人々を悩むる向近隣の村老翁りて我興の亡魂一  
社の神お出せりは前田大明神とてやまといふるおの多禮今ふといえ  
いととろけぬるふりて成りて一歩たりあり云

玉川辨天宮 別高龍王院は地海侯の

八幡宮 八幡隊村ありは所の生土神と例祭六月十五日神樂

大森 村の名といは所お中散の茶店ありひりま茶細工の

長栄山本門寺 塔頭三十八宇

本尊釋迦佛 運慶の他

祖師堂 祖師日蓮上人の像あり

宇在傳尉宗仲が家あり法華経脱て宗意弘通しり時交子

達公怒く宣うる家院おんは利興化縁満りて弘安三年十月十三日遷化

しゆ布宗仲上人の受りてありお竹とて寺とをり今寺中お竹の坊

あれ當山の封境巍々として五重塔題目堂二王門惣門共お額へ光悦の

着之其外七面御鬼子母神妙見骨堂宝藏祖師の所塔所硯石祖師

腰掛お千束沈の長三町お旗五十向の地の高祖遷化の古跡とて一宗の名利之

什宝 同 念珠一連 同 消息數通 同 肉付書

注書法華経日蓮自香 衆尼石天竺堂山よりつる 日蓮自香



大師河本  
大原等  
遠勝の士

唐の聲  
玉の聲  
何百里  
支芳

葛藤政美書



大原等

大原等





海草の味 其角 何水 中魚



芒几蘭寄

川傍くわいりふ川まその田名ふらん  
笠橋もたが製のやせりぬらん

まつひのらうのれ傍の笠橋みはや若う所坂こゆらん

白波の芒几蘭寄の原駟松のらうぬをの人をつれるるさ

紀行

芦橋しやせやうらうのちるびと波ふむるなる松風

准后道興

名を芒几蘭海苔

大森とくしつ所の沖あぐさるくぞふられ松風海苔し

比海苔と原の秋の彼岸より始りて妻の彼岸小終る霜月臘月をく寒き氣

漂列ある附取と最上とくは本とくすの筑多く拵けて小艇小積沖の方十町

許りるひの井町又一里銘も出て狼牙棒やう海庭小穴と極てののば

孤抱まみまふれ松口とく満潮小海苔ふれ小纏く干汐の附分ふ

凌と所や歩行せも出ゆるふらぬやう通く其海苔松籠ふ入持帰

磯色とて流流し塵をて撰て板の上とて庵下松りの内細密ふ敲く

持れりる蔭の簀紙と漉すふ流流し建ふ双干乾し疊重のて凌州

町の海苔同屋をく賣くその人芒几蘭海苔といふゆと凌州海苔や

つらや海苔も海藻のたふのふあやゆらん

鈴杜八幡宮

例祭八月十五日社内小帳石といふらう撃の竹の老少ゆ

神室とく未社五茶箱茶大園主命 藤田彦命 各助天 一急瀬瀬神

又笠橋洞小六茶 天満神 鹿島 粟崎 妙天 菊理彦命 書言令

王右軍筆等 須賀の

社司藤田氏守

儀駟松 神木とく

鳥石

本社の傍より大サ三入

石面小鳥の模形より五寸許

石のた肩小碑より南郭子銘

言の古篆かして鳥石書辰鏡

石前小聯らうたのふ

新秋の珠笠島雨  
傳降茶海釣森風

明和元年八月

藤定福

右ハ梅小路三位奉義定福卿



鳥石の模形より五寸許  
石のた肩小碑より南郭子銘  
言の古篆かして鳥石書辰鏡  
石前小聯らうたのふ

内院一品金車  
典仁親王

吹さらけり  
中りくそ五  
たうふる  
ちる揚子

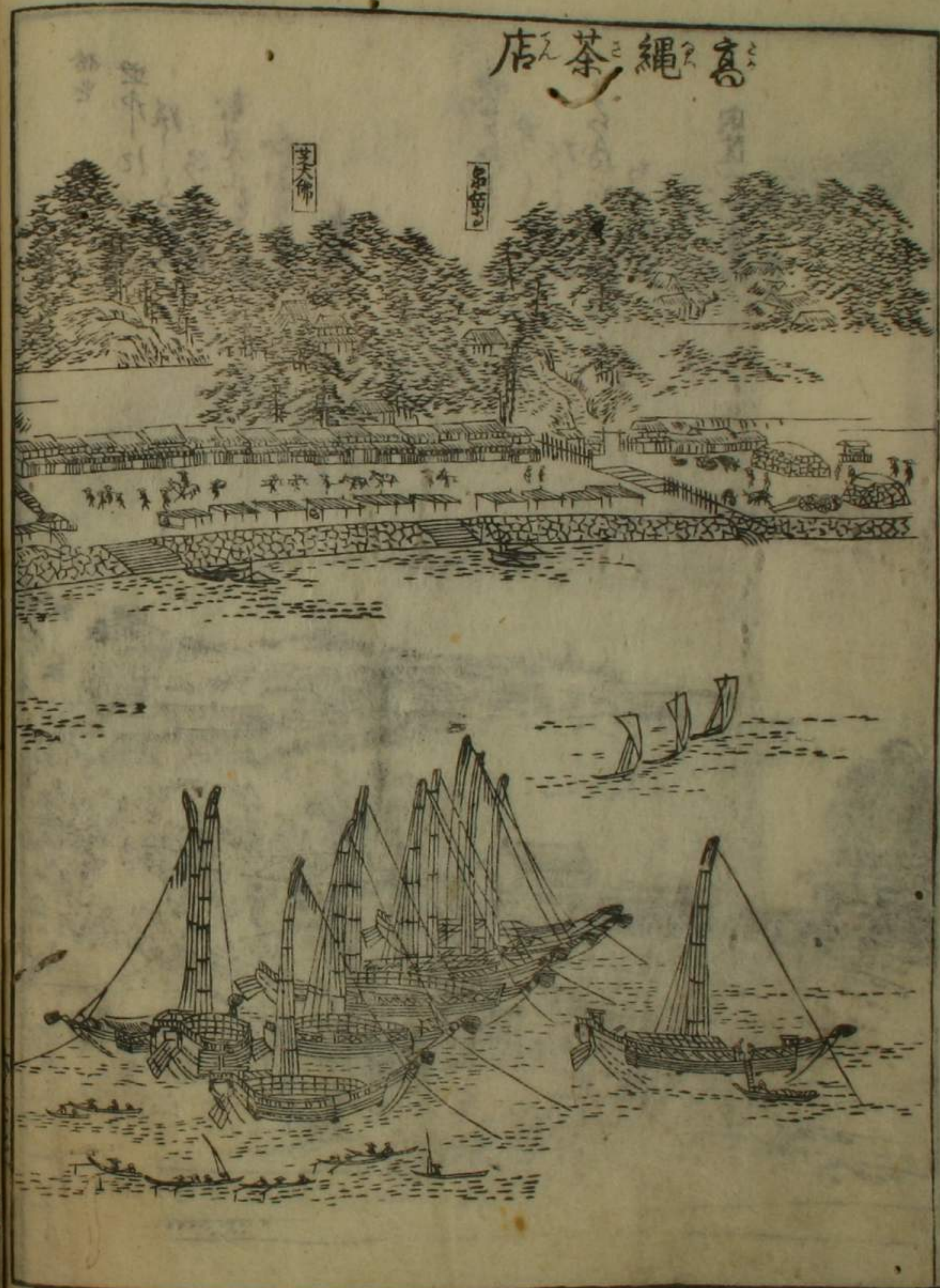
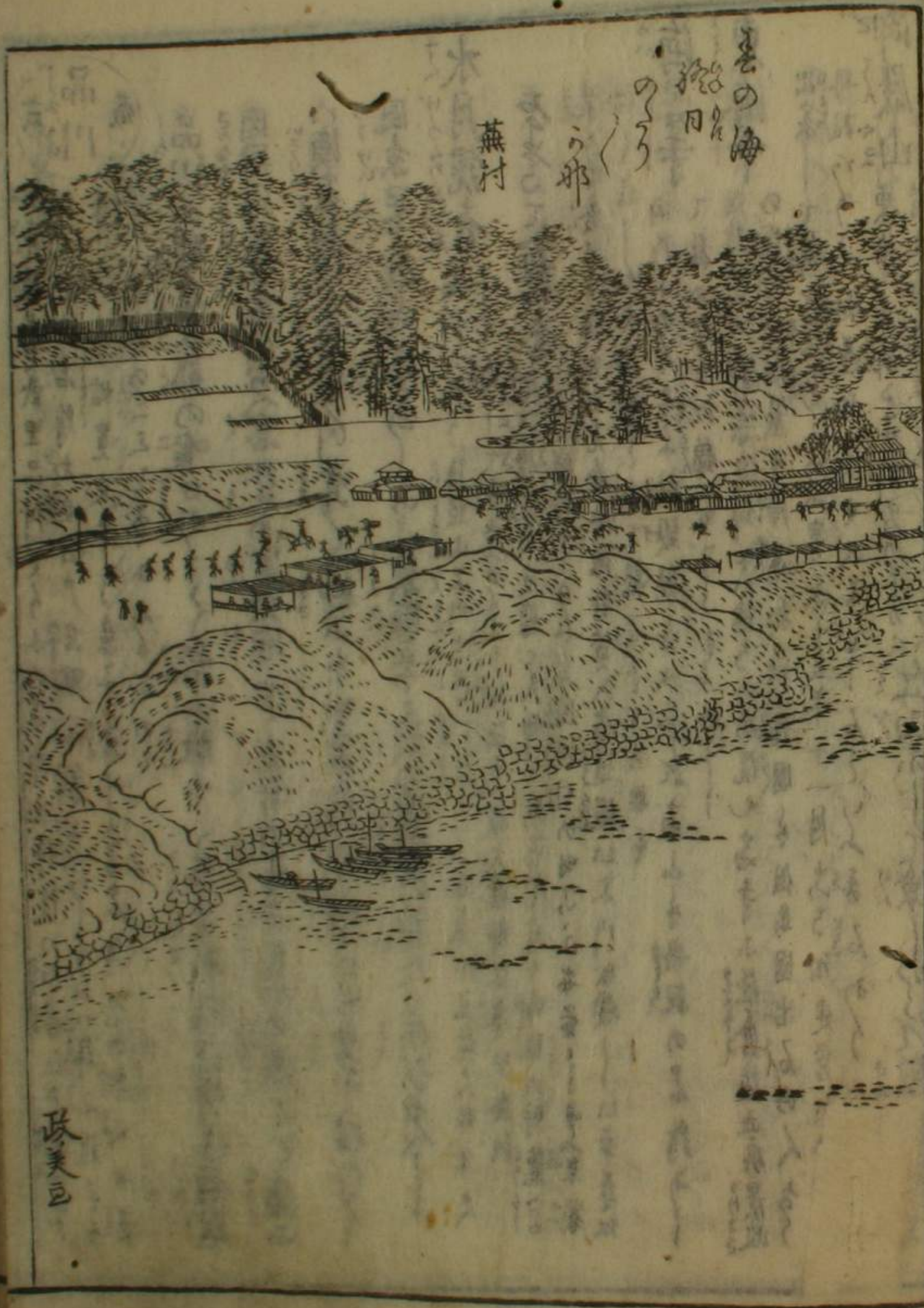
拾光  
世中に  
は見えそくら  
心ありある  
東蔵



御殿山  
天王社



西美馬





三田八幡宮



乳小島

島八尾  
志々尾

放生舎

放生坊  
松の堂



美登殿

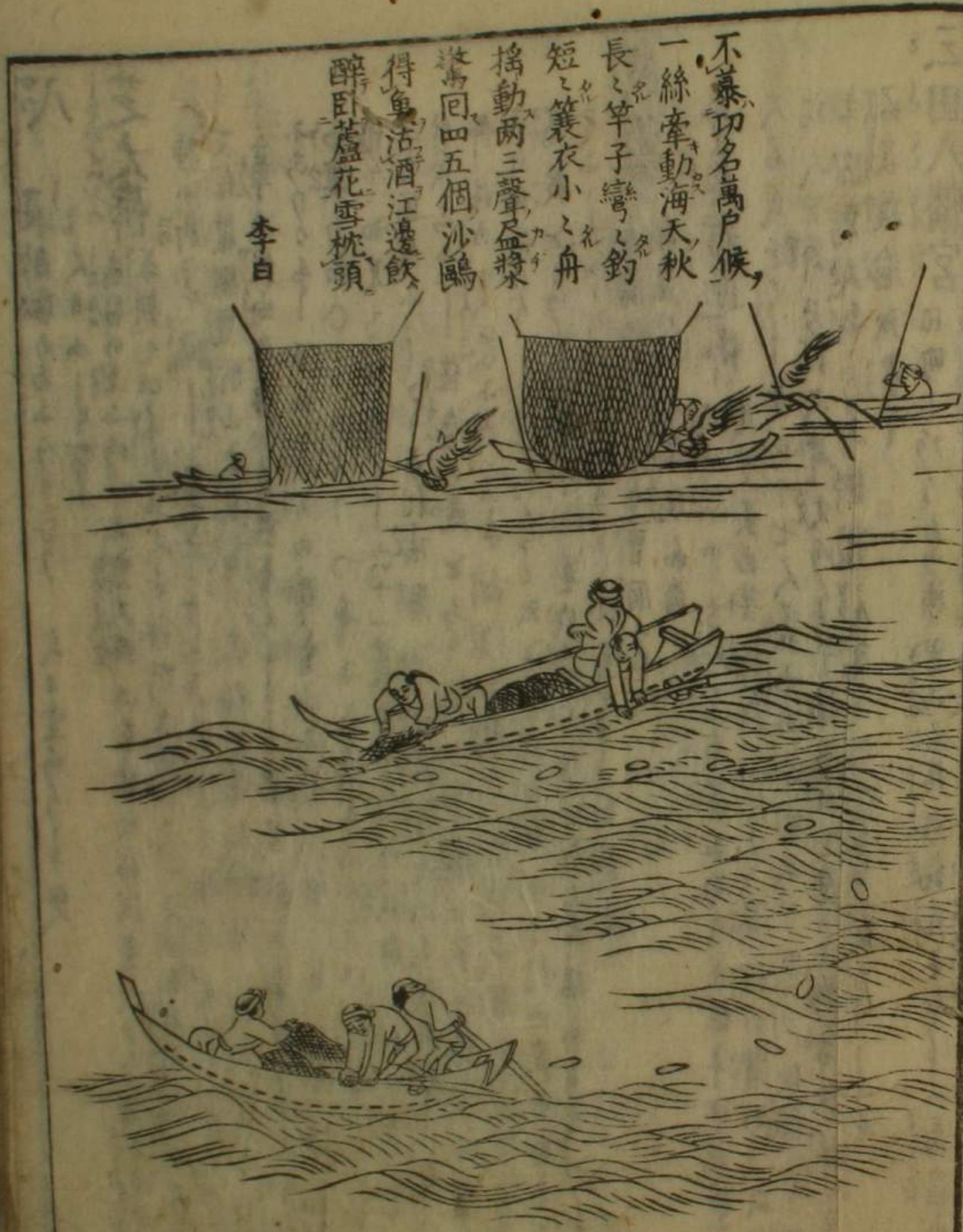
芝海  
漁舟



北尾萬齊畫

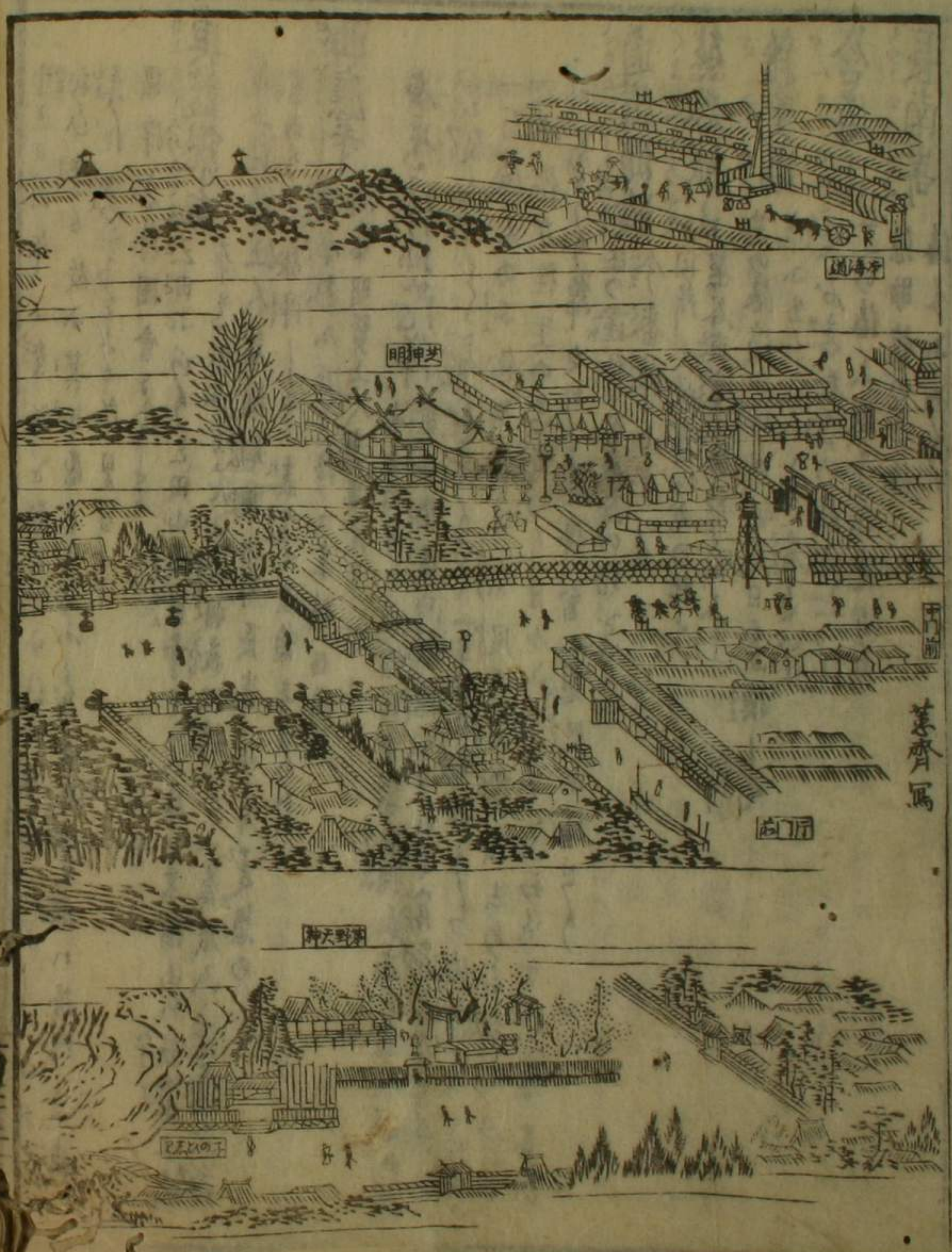
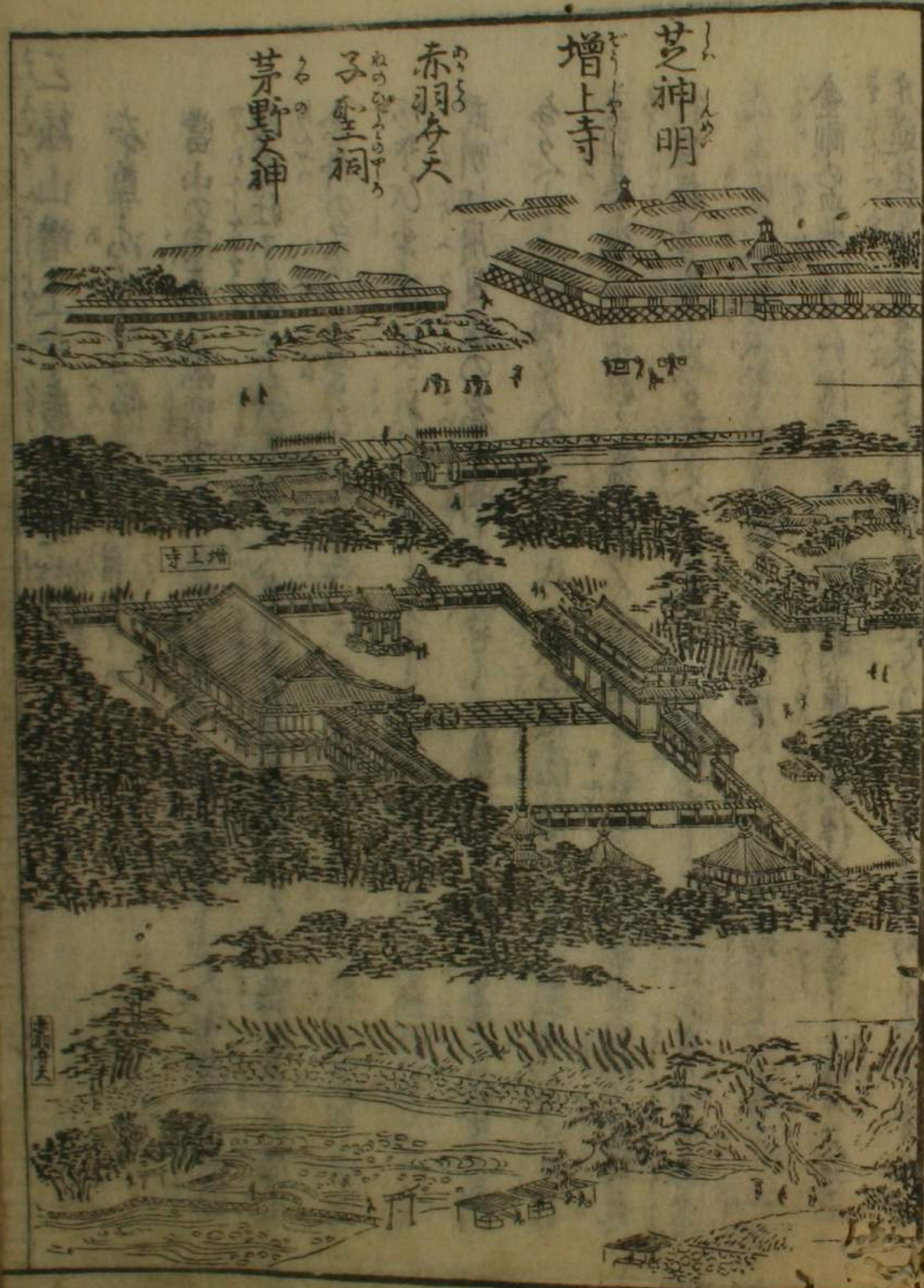
不慕功名萬戶侯，  
一絲牽動海天秋。  
長竿子彎如釣，  
短篋衣小似舟。  
搖動兩三聲，益將  
漁網回四五個沙鷗。  
得魚沽酒江邊飲，  
醉卧蘆花雪枕頭。

李白









三縁山増上寺廣度院東叢林

本尊の弥勒佛長三尺八寸許

當山の開基は總州千葉の末裔として源室上人七世の嫡流

酒蓮社了譽上人の高弟大蓮社西譽聖聰上人と號して浄土

念佛の宗風を傳へて之心布一乃窓のあひらみ念四修の月夜をて

のやび事理俱れれりの中は実報受用の花が縁とて

武州江府貝塚の譽光明も住せり舊地は今報後等と稱する所

ありて其頃より人皇一百一代後山松院に御宇至徳二年その

丑の夏光明寺に於て論義のり讚題を尊導大師の四帖の疏に長時起

行果極善提といふ釈文之酒譽上人被化して所化の輩向者答者

馬ふ法門の扉にや死光明もなつたためて三縁山増上寺と号し一心

金剛の血脈をうけはさす二世の明蓮社問作上人と号し才二世の

定蓮社聖觀を奉養上人と號して佛を被れり奉養するありて才十二代

寺職総化院貞蓮社源譽上人と号され増上寺中興し官家師檀及

台令のりて御戒師と成血脈相傳りて上人遷化の慶長十五年

ふして慈深普光觀智國師と賜ふは時ふありて易の法門の行運

たうち佛のやを時機せり相應して一天四海宗風小歸きり半七の

ゆみふえりて被化の二代の法藏と胸ふたえ所化の十二世教文眼

のこり聖道にまゝ智深にみじく法法利生はるりて法々れはあ寺の

院辨法廣度院とも名づくといふ寺を御靈舎りての後の山岡のあふ

所化寮連綿して山門巍巍とて釋迦文殊普賢十六羅漢の像が

安んず安國殿黒本を岡山山堂鎮守の慈母之所飯舎りて神を堂経藏

金鼓を仍念佛堂極樂橋摩訶門蓮池の奉堂のりて海柳の并に

其山の方ありて曼陀羅石系座の松系山を座に坐して觀智

院のりて火消地蔵の花岳院を安んず文字席に五十傍横木扇席に十八傍横木扇席

六十傍横木扇席といふ會堂靈寶山の會堂金箔布たる給孤園も此せんや

画原史星  
 牛橋子孫の長通  
 子ら絶包陣、鹿か  
 榎ゆき名り、わい  
 江戸船い地の名お  
 新吉原の老魁あは  
 五徳ひのちとら  
 夕日す彩あはれ小  
 して初くわめく  
 若くわめく今人  
 ひりふかつら  
 権々の画をく  
 海内とら  
 土産の賞  
 栄一とら



六八七十四

丹  
 丹の  
 妙の  
 生るゆ  
 あり  
 繪を  
 あり  
 とら  
 栄一とら



政美寫

飯倉神明宮

田名田比谷といふ今芝神明と稱し別高金剛院

祭神天照大神

神傳云一條院中宇寛弘二年九月十六日小

人々を以て之を所小の神と云ふ也其後建久に  
常陸國鹿嶋の地小原に神を祀りて伊勢の二柱の神を  
祀りて地小原に神を祀りて伊勢の二柱の神を  
祀りて地小原に神を祀りて伊勢の二柱の神を  
祀りて地小原に神を祀りて伊勢の二柱の神を  
祀りて地小原に神を祀りて伊勢の二柱の神を  
祀りて地小原に神を祀りて伊勢の二柱の神を  
祀りて地小原に神を祀りて伊勢の二柱の神を  
祀りて地小原に神を祀りて伊勢の二柱の神を

愛宕権現

芝小あり別高圓福教院真言宗

將軍地蔵尊

行基大士の他社頭小大房坊祠大師堂也天の  
末社六花三王門終堂地主稲杉社延命地

男坂といふ又右と女坂といふ

柞愛宕山と云ふ京師朝日峯白雲寺小准トて神躰ハ伊弉册尊

迦具突智命多々たれと火伏の神と稱す本地と將軍地蔵尊

修羅園靜の眩志は浮伏一を平安寧守護加忍辱慈然の尊

然りて利益をまき給ふ元生小蒙りてわがまのふ遠く東國江

府の地小台嶺然の山に神勸信り其威徳つてわがまのふ遠く東國江

靜瀧あをばはるる靈驗日々わがまのふ遠く東國江

京の傍境多れいふふふの芝小川の海面遠く房總北山々鮮ふて表の

水秋の月小茶店の湯多ふ山吹喜撰松薫らせりての豆茶生ま茶

香奠茶負茶婢中ても京師の祇園多羽の風流とつて毛多ふ

築比御堂

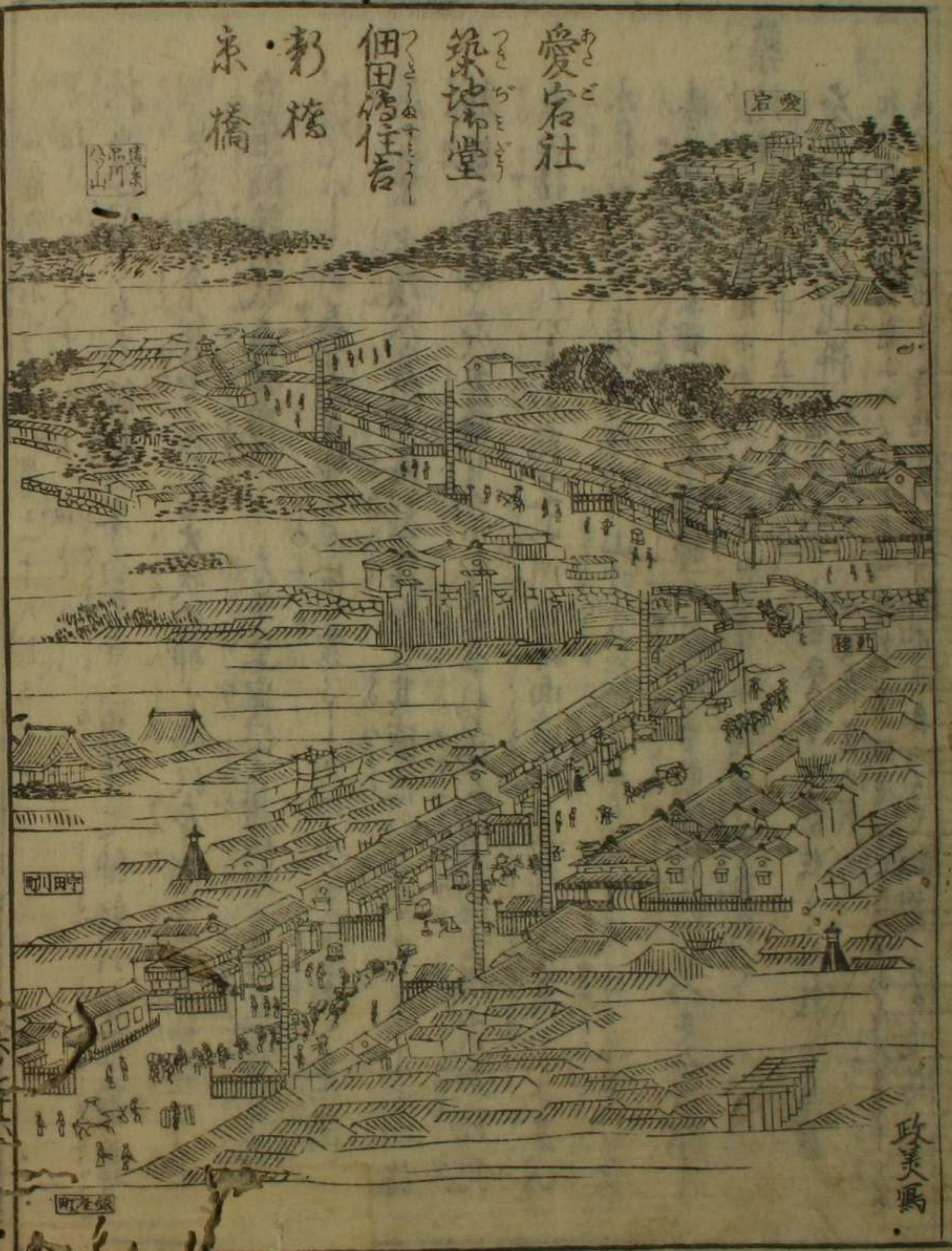
築比あり京師西六条本願寺論番所也

本尊阿彌陀佛

賜檀小向山親譽聖人前住と人形と云ふ

知の候茶茶の由ふりて明曆年中圓祿の災已はあつた候と云ふ

海ありて築比出寺地より近幸御堂再興りて壯麗なる道場也



愛宕社  
 築地堂  
 佃田住吉  
 新橋  
 東橋

岩愛

立立

西  
山

町山田

町港

政美馬

日本橋

東都  
美政新圖



富士山



東  
日本橋  
都

慈寶寺 高橋長サ二十八向江町中の中央より  
行程 百武拾四里半拾五町驛 石五十二次 此れと東海道

け橋上四方眺み風色真妙なり北小浜系東叡山南小富士山峩々と聳  
峯ハ雲ろ小川一入りの海とこれ名まで西の方の 御城巍然と  
東也と海はらちくけり舟もさうふらふら橋上の舟人征馬の  
（もしく橋下也と魚舩植舩救百艘漕つとひて日毎小市賑ふる聲  
真不三條九陌城隈小簾萬戸千門平且小閑くといはるの事々々  
旅人乃乃のこゝ小ふま道あまのこゝるやと一野の東 右大尾

東海道名所圖會卷之六 大尾



